新和歌類句集十一

第二句
五代集
後拾遺

特別
イ4
3163
22(11)

貴
14
3163
22(11)

新和謌類句集

ふ

新千春下　春日おく　はなはいらりはかるまもとりみんとれわたてさせ　よしの人丸

新拾恋二　たこいなき　はなはとめてもはしりさてにはさそたやしせは　業平

風　新下　うらうつ　はなはのあれさてみをりるをうれいみをはるき　業平大伴宿禰

月　新下　せしろれ　はなりこはのあれるをりわるくまてはるはん　太上天皇

日　新下　ゆくれる　はなもあれるをりるをせはい梢はれ物思をはけり　俊頼朝臣

日　新下　もしそれ　はなはそくはのあさこりはれ物はりをはをはの　業大伴宿禰

新後拾遺　わ水乃　はなはせ今行てあるをりはるはるはるはるはるはる　頓阿法師

日　秋下　もしは西　ありいあるをもしてはしあれ今いてはるはるはる　原和泉朝臣

新千　秋下　あるはれ　ありいてをもしてはるはるはるはるはるはる　華林院殿大納言

新拾遺　冬　ろう君も　ありたをもしはるはるはるはるはるはる　皇太后宮大夫俊成

風 春中
新後拾遺 春上
新後拾遺 秋下
新後拾遺 恋
新後拾遺 春上
新後拾遺 雜中
新後拾遺 雜上
新後拾遺 春上
新後拾遺 春上
新後拾遺 冬
新後拾遺 雜上
風 冬
風 冬
新後拾遺 夏
新後拾遺 雜
新後拾遺 秋上
新後拾遺 秋下
風 雜上
新後拾遺 雜
新後拾遺 雜上
新後拾遺 春
風 冬

かすみたち　春たちて　我ぬしがほに　うぐひすの　こえのみぞ　いとどしき　春の日の　ながめにぞ　ふりぬる　雪の　ふるさと　人の　ものかは　ながめ　ふる　雪の　ふるさと　人の　ものかは　ながめ　ふる　雪の　ふるさと　人の　ものかは　ながめ　ふ

新拾遺 雜上

春にのこれる人もまれにみるかな　原弘氏

新後拾遺 春下

木ぬれとは　花にあらぬ白雪　前中納言

新続古今 冬

ふるとみえてちりかかる　中務卿

新千載 冬

ゆく川のしがらみとなるや也　為家卿

新後拾遺 冬

ゆく川水もこほりてまなく月かな　今上御製

新後拾遺 冬

むら時雨　今上御製

新後拾遺 冬

はつしぐれ　前大僧正

新後拾遺 冬

ふるとはなしにうすくこほりて　後光厳院御製

新後拾遺 冬

ふるとはなしにうすくこほりて　後光厳院御製

新後拾遺 冬

雪とはなしに　前大僧正

新後拾遺 冬

ゆくあきの　後光厳院御製

新後拾遺 冬

ふる雨の　後光厳院御製

新後拾遺 冬

ゆくあきの　後光厳院御製

新後拾遺 冬

ゆくあきの　後光厳院御製

新後拾遺 冬

ゆくあきの

前後左
姉小路
前後左
張
前後左
羅
前後左
姉小路
前後左
千
兼
同
衰
前後左
文
前後左
千
文
同
前後左
千
兼
前後左
姉小路

とくに
いとをも
あはれ
みさと川
わたり
ゆき
ゆき
ゆき

同
恵文

新千
弁

新後拾
恵五

新拾
弁

新後拾
恵文

風
弁下

同
弁下

新拾
尺

新後拾
恵一

新後拾
秋下

同
振

新後拾
恵上

ゆきこもりたるつゝみのみぞはに　太上天皇
水上に　ゆきみぬ北の山ぞとも　みもとを川の　芝木田守　藤
うゝみぬを　ゆききゆふたれ　多ゐ　ゆきやいつるゝ舟　井中納言為
石清水　ゆききゆ人の絶いわをわりゆ　もゝしゐ　吉下章清
わとゐて　ゆきこぬ　ゆきとゐて　ゆきこぬ　ゆきこぬ　ゆきこぬ

新後古 非
同 非
新後拾 冬
新後古 春上
新後拾 新十 誹
新千 尺
同 離別
新後拾 冬
新後拾 雜秋
新後古 夏
新後拾 新秋
新後拾 冬
新後古 新中
新千 春下
同 新十
新後拾 夏
新千 恋三
新後拾 新春
同 冬
新後古 新上
同 冬
新千 恋中
新後古 雜上
新千 旅十

非風や　みちのくの　たいらの四十せとの内
衣うま　みちのくの　せいあつまの　こころ
ととぎす　四月ついたち　なかばころ　の　夏
ちるさくら　道とも　ながれつきて　えこそ　ぬれ
三つ　ながれ　四月なかばの　三十日　ゆいはらにて　ちる
三つ　ながれ　みつの　ひとつ　四十　せとの内
男　ながれ　ふるの　扇　ながれ　ながれ　男
ながれ　ながれ　みつと　ひとつ　人（いそて　心　ひとつ　ながれ　ながれ　定
これまで　みつと　ながれ　三つ　ながれ　ながれ　ながれ
これ　ひとつ　四十　ながれ　ながれて　ながれ　ながれて　ながれ
ながれ　ながれ　ながれ　ながれ　ながれ　ながれ　ながれ
ながれ　ながれ　ながれ　ながれ　ながれ　ながれ　ながれ

遍照院　伯耆守　原頼元　心院道英　藤原仲文　大江廣房　中務　平大納言　領　坂和尚　内大臣　華山院　左大臣　東宮四位　三條太政大臣　平大納言　立教　花園院　口勅　平泉中納言　藤原為俊　朝臣　藤原秀衡　中　藤原定家　源宗于朝臣　源季房　源頼朝　左大臣　入道親王　法皇

新千
夏

悲しい秋い
みてやうとと時ないし社のよいもとうの
進子内記
正

新拾
恋三

せめて
ゆけば稀うちと思ひて
従二位家隆
建保四夏

日
春上

夫めて
ゆけば夏とかすしまけ
従二位家隆
月

新続古
冬

四月
みけの月の氣さえて
従二位家隆
月

同
夏

みを来門
ゆけば庭のもくきに
光慶院
月

新後拾
恋上

わしの風
ゆうこにもしかあれやわ
作代
ふいまかいく
従二位家隆

新続古
恋上

多ひにめと
ゆきに光をもてうわうれの
侍従伊成

新拾
冬

如月
ゆきまに日ちて思れ
従二位家隆

新続古
恋上

心風
ゆきあるうに月とと八月とき
参議雅経

新拾
恋一

しの
ゆきふれ
従二位家隆

日
冬

如月
ゆきしてしかりしう
実朝

新拾
恋上

冬の風
ゆきうちとうりとうるの
従二位家隆

風
夏

あやうと
ゆきうつまとして
従二位家隆

新拾
雜上

如月
ゆきうちとうりとうの
衣笠前内大臣

風
雜中

一年さに
ゆきにうの風やとうの
前大納言為世

新拾
如月

春れ春の
ゆきうるうにきこゆ
清浦羽

恋三

そすうり
ゆきくうの風れて
従二位家氏

新拾
冬

ゆうくり
ゆきくうの風のうとうん
桃園大納言実信

新続古
春

春の風
ゆきうとすいとのいて
後三條入道前太政大臣

風
冬

春の風
ゆきこの風れ来の
大口真重

日
冬

春の風
ゆきあれとの
光明峯寺入道前関白太政大臣

風
雜下

一年さり
ゆきあれ
白河院御製

新撰秋上 日 非必 新千 冬 新拾 冬 日 冬 新拾 冬 日 非必 新拾 冬 新千 夏 新拾 上 非上 新千 冬 新千 恋一

如風乃
ちてもそい
紅葉をと
いはしを
こそれ花
れはれ
ゆれて紅
はるのやま
今を三つ
ゆる者れ
ちて色に
むしそれて

ゆまそてとさいかされくの者をるくたちへけり
ゆこうもそめ山風よ時面てと海の葉れうさも
ゆさもてて切風れもものとうといかをいさりる
ゆりとやけ切る初時面産れ本の葉に者れ連
ゆ程ゆく風よりしてふまてとやを
ゆゆゆかくかるりかいさ多こ海こ者やとうん
ゆゆこうあくゆめわるめわれと者にはとをくく
ゆ程こうさるまこいりと者れ連をてけ時面
ゆ程こりゆ多こ市て花よさこ（きた弱あり
ゆ者れ
ゆ
ゆこ
ゆこ多ま

二条院讃岐 定助 よし人 女房 微子女王 横大納言 原有長朝臣 兼茶弘法 言 法皇御製 原有長朝臣 原宇氏 後二条院御製 掌侍院御製 兼大納言 任 卜部兼直 兼大納言 定 後冷泉院御製 順徳院御製

忘れはよ
てくらひ
わまの川
りてれ
こうかれ
ゆ乃多の初よ月
ゆ多〇の朝風よ神三月連うの
ゆ初ようあて初よ神よ
ゆ雲れ
ゆ多れ
きとと
ゆ
ゆこうしてしみうり
ゆこ多ゆ
ゆこ
ゆ
ゆ
ゆ

新千 新下 新後拾 長上 同 恵二 同 新下 風方 新後拾 恵二 風 恵三 新千 新上 新続拾 芝 新拾 神 新後拾 長下 風 新上

ゆきのうへのりれせるうてやりわらん　預人宗元
すうや　ゆきれたのりてけて　はしりて　比阿法師
といの　みすれ星い名れるうを　春宮権亮基
忘重すま　みうの星乃うくと山寺に　八雲入道宗
今重行れ　ゆうの星れ時ゆうの山三代乃とうう　人　内大臣
ゆきれ星乃開ちいこうに思をむけ　後二位宗隆
わすれすう　みめ歌りまありをよ思いてかき　後二条関白
雲いあれ　ゆりとにみくく立れ同ける　地をうう　ゆれ　前内大臣有忠
神山れ　みりとしとしりみやし乃君乃後や家代　前内大臣
尺うさ山　ゆりとれ　ゆりうう　ゆうれ乃て　いのりし　前内大臣
あるゆ　ゆりとれ　春よりもしき　ゆりとれ　春宮長雄
水あとさ　ゆりとれ　いりう　春うれ　ゆうれ　後久我太政大臣
　　後京極摂政前太政大臣

同 拾下 新後拾 拾下 同 拾下 風 秋中 新拾 羈 新拾 長下 新千 羈 風 新中 同 新中 同 文

ゆうう山　ゆりとれいうれ雲晴く田のりれおうられ　前大僧正慈円
とうう山　ゆりとれ屋元神みえて多くけう拾の朝うう　前大納言忠
ゆうや海　ゆりとれ山乃いうてよ吉れうしきれ　養徳院殿
とうう山　ゆりとれうの人あひて　白太政大臣
あけれて　ゆりうの日いそれ　平時
鳥れ神　ゆりとれ星にとうう代等うけれ月家　安嘉門院雅明
れ山　ゆりの恨うわし立ものうくさゆう　源宣
れうう海　ゆりの春とうてけ　二条院讃岐
うう　ゆりの道れうれ代月初いて人ば山人　前大納言公春
山や　ゆりとれ恨うう人のうの日気を星山　後伏見院
れれ立　ゆりの秋い重にうう　前大宰大弐後藤

新拾遺 秋上
なにはの
こゑやよりあらそふ
あしの
ゆめ
後二條院御製
藤原定家

新拾遺 秋上
夏みつ
ゆめ
ゆめ
ゆめ
ゆめ
後二條院御製
藤原定家

新拾遺 秋上
こゑ
こゑ
こゑ
こゑ
こゑ

新後撰 恋一　なちかの　なちかの人　なつかしと　なつかしと　なつかしと

新後撰 雨上 夏

すゝ川

こゆるやゆかんとかねてせゝらぬ海

ゆきて

こゝろやすゝむ大井川さゝ波の心はゆく

新後撰 冬 風 春上

ひゝれ葉に

こゝろし侍れ立ちぬるにそとみえぬ春の海

かすゝ立

こゆるもこけのあらはれてゝ

新後撰 春上 風

春しこゝ

こゝろとけてゝ

ゆくみ乃こゝろの春ぬるかな

新後撰 冬 風

くゝれせゝ

こゝろもとゝて冬ぬ春の川ゆくゝ月をまけり

物思いろ

こゝろわさゝの物思ひてとゝろ侍れ春の

新後撰 雜秋 雜上

地水乃

こゝろみさゝのわしも物ゆてやとゝろ侍

新後撰 冬

さゝ日い

こゝろしくゝ

右兵衛督為忠

水ゝ川岩ゝ侍ゝ水ゝ

新後撰 雜上

ゝ侍ゝ

こゝろ春やゝ

ひゝ出て侍れ不業上十ゝ月

新千 雜上

月ゝ

こゝろ浪ゝ

ゝれて月ゝゝすゝ侍れ

新後撰 冬

ゝ月ゝ

こゝろ春ゝ

ゝ侍ゝ侍ゝ侍

新拾遺
夏

ちはやふる
とうらいむ時鳥あとをあやうの行末とうら
大納言定光

新後撰
雜上

ゆめよりは
とうらてもあるあとをあるものを
後深院御製

風雅
雜上

ひとくこと
ことそとしなさあるかて今宵の月しるらさ
宗弘法師

新千
春

ひてみさく
ことそとかきさてはいとかてはなれさにつれ
後三條為信

新後撰
四釋

ふるこゝろ
とひてやむ旅衣ひとしなるあらしの心人
藤原宗親

風雅
雜上

玉章し
とひてはまたもの石根のうもにうるとはて
藤原和義

新後撰
恋四

月
ゆれもれ
とうらにはしに切りあるとうれうにうる契をも
康守親王

新拾遺
恋二

月
ゆくれく
とうらもいて幕をあれうにうる月家
平中納言基成

新拾遺
恋三

月
あるたふ
とれ業いうてみてしかりしうるあるあ藤原宗方朝臣

同
恋五

月
ゆさられ
とれそふれとうるのむとうれ
賀茂雅久

日
恋三

ひてし
とれ業とうてみをんそとうれとうるとうるとうる

同
衰

あつめ多
久田さう
秋の月世
夏の月

新千
新上
新続古
新上
新千
夏

こしいさを丹
こそ秋のもみ
こそけ田
こそ玉ほ
こそけそ
こそけそ世
こそ行乃
こそ寄
こそ野山
こそ雪乃
こそ山と

神まかそてうわ
れあに月も
昔にうを
こそ玉ほ
こそ行と年月
こそ行ん
こそ行乃
こそ寄
こそ雪に
こそ山と

新続古
新中
風
新上
日
冬
新拾
新続古
新上
新拾
末上
風
新千
恋一

橘大納言
義証
英大僧正寛
証
中務卿宮
歌
左近中将義
雅
藤安門院
一条
伏見院
御
永福門院
右京大夫
後京極
基世
情浦羽民
坂東伯
大臣
様大納言
隆
英大僧正寛
証
左近大将大
通
大中臣行房
羽民
藤中将俊
名

新拾
恋四
新千
恋三
新拾
恋三
新千
恋三
新千
恋三
新拾
恋三
新拾
弥
風
恋二
新続古
妙上
新拾
恋三
新拾
恋二
新千
恋三
新拾
恋三
新拾
恋三

うきに
同ちは
きれと
あるて
あるて
あるて
こそ月
こそ月
こそ夜て
こそ夜
こそ夜
こそ夜
こそ夜

うきにて
同ちは
きれと
あるて
あるて
あるて
こそ月
こそ月
こそ夜て
こそ夜
こそ夜
こそ夜
こそ夜

うきにてこしこしこしこしこしこし
同ちはこしこしこしこしこしこし
きれとこしこしこしこしこしこし
あるてこしこしこしこしこしこし
あるてこしこしこしこしこしこし
あるてこしこしこしこしこしこし
こそ月こしこしこしこしこしこし
こそ月こしこしこしこしこしこし
こそ夜てこしこしこしこしこしこし
こそ夜こしこしこしこしこしこし
こそ夜こしこしこしこしこしこし
こそ夜こしこしこしこしこしこし
こそ夜こしこしこしこしこしこし

帝
大臣近衛
坂三條院
内製
後三條院
後人
日吉社
内三
并大宰大弐
後兼
并大納言安
教
原光行
吉下安房
左近大将大
通
大中臣行房
羽民
藤中将俊
名

新千
恵三
新拾
恵三
新拾
恵三
新拾
恵二
新拾
恵三
新拾
恵三
新拾
恵上
新拾
恵三
風
雅下
新千
雅中
新拾
雅下

あのめるを　こゝろとけなくいひなりにまうこと　前参議有
いたもそう　さゝあまさと恨てさはうも思ふ　大納言隆房
いふせんと　こゝあまされ神のあよ月とをまつ　後鳥羽院の御製
いまゝ　こゝあまさのさゝみ井とこと月とを　参議雅経
ちりぬれ　こゝあしたの山桜ちりぬるかの中の年月　律宇四量
ぬるを　こゝさりにあるみなを多つ物を　律宇四安
あるて　あるの浦ぬれやつ月ぬれてこの世の　祐春代所
ものし　こゝ人まつ長の月ぞそらに　山陽入道
あ人　こゝ物ゆ人をすぐうまいて物さ無　輝定房
こゝ　こゝ月ぞ乃ゆこゝあくれと人のうの　法性寺入道
もゝや　こゝ乃ゆ鶴れ一ちいち物ゆ物ゆ　前関白太政
あるれ　こゝ月を乃れあけ中て暁ゆく秋とや思　前二位行房

新千
恵三
日
恵二
新拾
春上
日
如上
新拾
如上
新拾
春上
風
恵二
新拾
春
風
恵四
新拾
春
新千
春
新拾
雜

又いまは　こゝろもとけれあくて　三位隆教
さてあれ　こゝろれ煙らもの　頃人
うをつと　こゝあれなをふまとて　二条為氏
ほ合れ　こゝいてあるてれ　後隆房内大臣
名にしき　こゝいの姫の中をひ　大江貞重
いたゝあ　こゝいてさ人井をと　前大納言為方
ひきれ　こゝいをあるこゝいを　永福門院
あてをた　こゝの月井ひて　妙京院
ちりぬ人　こゝの月をいみ　伏見院
いそれ　こゝいの月ぬ　西行法師
つあ年　こゝの月をみ時よ　權大納言行房
ものいて　こゝいの月のひ　寂蓮法師

新古 恋三
風 恋二
日 冬
新続古 恋三
日 友
風 恋二
日 恋二
新拾 恋三
日 恋三
新拾 雜下
新続古 雜下
新拾 友

心なほ
遥かなる
しも思ひ

こゝろひとつ月もとゝまれかねてとはぬ人をなほ
こゝろひとつそれをなぐさめていはぬ人をなほ
こゝろひとつ雪はいとゝあはれなる人をなほ
こゝろひとつやよはいとゝあはれなる人をなほ
こゝろひとつ山ゆくあとの帰りのまくらになれぬ旅
こゝろひとつ夕べの空のあはれなるかな
こゝろひとつ夜に堪へてみて月日こひしとなん
こゝろひとつ人目をよくて雲れる空
こゝろひとつ思ひ乱るゝ夕やとはそ
こゝろひとつ思ひ出でいまは世のうつり
こゝろひとつ思ひ出でいまは世のうつり
こゝろひとつ思ひ出でいまは世のうつり

入道三条殿 法号
水福門院 内侍
後人不知
原和氏
前大僧正 寺
水福門院
徽安門院
大江忠幸
原貞世
前大僧正 法
土御門院 ノ御
後東法師

新続古 恋上
新拾 賀
新続古 賀
新拾 雜中
日 離
日 長
新続古 恋三
新拾 長
日 恋四
新続古 恋五
新千 恋三
日 四季

かすゝ山
ひるか里
庭の面に
雲ゆて

木のもとをたゝみてしかの代の月をとゝろ
木のもとき松をゝ凡の雲半にひく幾代ぬ
木のもとを雲ゆくみとりいく三月をぬ
木のもとに雪ゆくとりいく三月をぬ
こゝをとゝまるとゝまるとゝまるとゝまる
こゝをとゝまるとゝまるとゝまるとゝまる
こゝをとゝまるとゝまるとゝまるとゝまる

同 雜中
新千 恋下
風 恋五
新拾 雜恋
新千 哀
新後拾 哀
風 友
新後拾 恋上
新後拾 友
新拾 恋二
新拾 恋二
新千 恋上
新拾 雜上
風 恋中
新後拾 恋上
新後拾 恋四
新拾 秋上
新千 冬
新後拾 雜下
新拾 恋三
新拾 雜秋
新千 冬
新拾 恋一

もの思ひ
あり山
多うう
こと
これ
こと
こと
こと

新拾遺 永春 新続古今 冬 新千 冬 新拾遺 恋五 新続古今 雑上 新拾遺 夏 新千 冬 新拾遺 冬 新拾遺 冬 旧 雑中 風 冬

これをしも　これをしも　これをしも　これをしも　これをしも　これをしも　これをしも　これをしも　これをしも

枝をしぬ　これ葉をいふ　これをしも　これをしも　これをしも　これをしも　これをしも　これをしも　これをしも

ちりはてる　ちりはてる　ちりはてる　ちりはてる　ちりはてる　ちりはてる　ちりはてる　ちりはてる　ちりはてる

月をも　月をも　月をも　月をも　月をも　月をも　月をも　月をも　月をも

前大納言　経三位為信　津守国助　權僧正良覚　伊勢大輔　前大納言雅言　按察使惟宗孝言　初瀬成茂　修験羽黒　源重秀　後法性寺関白太政大臣　藤原定家卿　伏見院御製

新拾遺 雑上 風 冬 新拾遺 恋一 風 春中 新拾遺 冬 新拾遺 春上 新続古今 春 新千 春 新続古今 冬 新拾遺 雑下 月 雑中

散て　散て　散て　散て　散て　散て　散て　散て　散て

山おろしに　山おろしに　山おろしに　山おろしに　山おろしに　山おろしに　山おろしに　山おろしに　山おろしに

ひらるゝよ　ひらるゝよ　ひらるゝよ　ひらるゝよ　ひらるゝよ　ひらるゝよ　ひらるゝよ　ひらるゝよ　ひらるゝよ

春西よ　春西よ　春西よ　春西よ　春西よ　春西よ　春西よ　春西よ　春西よ

平時忠　進子内親王　前大納言実房　前中納言定家　土御門院小三位知家　宰相中将　藤原隆祐　中宮定房　源時雅　中宮定房　柏秀房　中宮定房　前大納言雅言

曰 始上
いかゝ者ん
風 兼中
うれ
曰 始上
ものしまい
曰 始上
気よいさ
新拾抄 始上
吹しら
新千 兼上
時雨ら
新拾抄 秋下
うさ
新千 兼中
雨ふる
曰 去上
ものて
新拾抄 兼中
うさと
曰 衰
出ものの
新拾抄 去下
ケ田山

これ月に角ものみなの人は月ふるよ
これまにみてさうしりのおうりふるこ
これ四うふ雲ふさくさんかれそれ
これ四ものあふ月ひてはるを四ものさ四ものこ
これ四ものさ雲はるよりまてくるあれの月
これてうこの角中てそてそてものを和
これ四ものこんのふ月ふるとうふ
この君まてふ代とんのもまれ
これのてまとみ花はりみてはる花
この水ふさこのふ次をれるもむあれ
この水ふさ乃あとるてさにうむをふ
これ下ケ乃いてしるうれのとやひの月

津守四文
板二条院 ロ二
式子内親王
桂中納言後宴
東宇四文
土御門院 ロ製
補 補
補 補
補 補

新続古今 雅上
さて花
ちるとみしまに吹ゆきてとまれるかの人

上西門院兵衛

同 雑上
うのはなのもれ出るかとうたがはれ
まさきのつ

藤原為家朝臣

新拾遺 雑中
これやこの君が世にあふぐ内川のかとうたがはれ
わたれぬ

祝部成久

日 雑
こやこの一夜ばかりの松をかぜ
雪ふるまれ

藤原季貞

新千 恋上
うやの夏のあさぐもの葉ふる雨
かぶいとも

後京極摂政 前太政大臣

新拾遺 文
うらのハ室のあさりうてあつ内はふる夜
もしく月

後三条院 御製

風 冬
こゑ来ぬ夕べ乃ふ人をさ内ぎ久ぎ
これうとく

藤原為氏朝臣

新続古今 冬
こゑ内ぎ川し木乃葉ふれてこにしたしく
人をこそ

中務内侍

新拾遺 恋
こゑ内ぎ川しまぬあつ阪のをにたゆ水ふりて名ぬ
うらとて

惟宗行光朝臣

新続古今 雑中
こゑ内ぎ川しをふれてみをはなれの名てしたし
みわの

藤原定家朝臣

新千 冬
こけ乃世をかしらあよ君のにそわ
梅ふる

後鳥羽院

日 詞
こゑれ衣の袖のしてはなれ名とふ
訓譜

風 雑下
ふるの雪のこけてしたの原袖やとら
ふる

永福門院

新千 雑
ふのこさ水しとをみたゆ水ふ
ふの

藤原兼氏朝臣

風 雑下
ふの内ふ水ふ水ふて仏ヒ心ふ花ヒ行つ
ふる

中臣祐任

日 雑下
ふの雪てにふれまつ雪ふれ
ふる

恒阿法師

新拾遺 雑上
山ゆき
ふけ乃ふたをふ
ふる人を係る

後一條院 御歌

風 冬
ろはまに
ふけさ初雪ふれ乃ふ
ふる

西園寺前内大臣女

日 恋
ふ
ふるとふ
ふる人

金蓮法師

日 雑
ゆふ
ふる夜のふりとけ
ふ水ふ

後光厳院 御製

新千 雑下
雪ふる
ふる夜のふれ
ふ井にそ
ふる

藤原為家朝臣

風 雑中
ふ
ふるさとにふ
ふて

藤原為氏朝臣

日 恋五
ふ
ふる
ふ

後中院 内大臣

新拾遺 雑
ふ
ふ
ふ

権大納言 宣政

原詮政

新後拾遺 巻下
新拾遺
新千載
新拾遺 巻一
新千載
新後拾遺 巻下
同
風雅 雜下
同
新千載
新拾遺 雜中
新拾遺 秋上

ふるさとは
ちりぬるまとをたのめしを
ちりぬるかぜのなさけにて
ちりぬるにさそはれて
ちりぬるやどのなさけにて
ちりぬるかぜのなさけにて
ちりぬるかぜのなさけにて
ちりぬるかぜ

風 恵六
新はな 新上
新拾 秋上
新はな 夏
新千 恵三
風 恵一
日 新中
日 恵中
新続古 新中
日 恵中
風 新上
新続古 恵二

秋さ人は
思ひたち
なれる海
さらしつる
いくとせ
思いつる
みるとなき
それとなく
うたてよ
ものたち
ひわたし
いなせむ

心あらとれわくれ四つ分は一契乃名残を
心はるかいつ(を)とはきわ(ら)くてうれ
心はるかなる海の長乃月やむしれてみるむ
四はなきよ時鳥三のふるしのてつ(ぬ)せ
四はなきてうのむしれこの契乃名残と
四はあまり思ひたいそとあはれ(き)れ
なすれあるりきりむふこうられれてと
四に秋と思ひまに春乃花ゝゝ知しこに
四はれ風あるもありたそこさ世ゆうる
四はあるぬし四しとかうたとれたるむれ
心はうこさとうあの物はいとにくなれの
四春乃ふるこさ雲れうこさ一つけてうは

院女房
宰先法師
頃成行
従三位為信
故京為世
故京行房
覚尼法
保子内親
三位頼藤女
後京極院
徽安門院
權中納言雅縁
内大臣
実冬
実兼
実俊
実冬
実大納言
実大臣
実冬
実大臣
久子母
万秋門院
実大臣
後柏原
内大臣
実冬
実大臣
実冬
実大臣
実冬
実

風 恋五
新はな於 恋四
風 雜
日 秋上
新千 春上
風 雜下
日 恋四
新於 哀
新後拾 雜中
日 雜上
風 雜下
新はな於 春下

あはにうた
心をうれえ荒れてこれ夕よそれ伝ひ見し
人をうきものこしほうらうてうぬのうれや舟 藤原乃信 作
世をいとふ
心を神やうあり見むらくまれ祭をうつ 太上天皇
ふれこれ
人をうきものうたうれ四うらうきあされ川れ 賀茂教人
号中
心をうあれ多しうりまて四うたうれ梅花 後鳥羽院 口伝
和歌
人をうしをくきてつうたいひ吹 月花院
人ふうう
心を多しうて(をけさいあくしむまうを 大江宗秀
なけえん
四をううてれくまくもれきれ水ぐされあと 院長信卿
ものうん
人をうしてはふりまうきを心水のようう四うん 前内大臣 維 徒
世をうう
心をいれううりはてうれ花や春人 雅経卿 桜窓
誰しれ
四をううてうれよりてうの春しうく 信西宋家
あをう
心を尺ケ人をううりかくうれ人りて世に 権大納言資 四
四をううてうれ
四をううてうれよりてうの春しうく 修二位業子

新於 哀
新千 雜上
風 雜
日 恋一
新千 尺
日 恋一
日 恋二
日 恋五
新於 恋一
新はな於 雜下
風 恋四
新於 恋五

かなしい
四をうていとせて悔い年さ祝ものとなく 孫人 見
行月うう
心をううてうくうう人はくうや初祝うん 三吾走衛 初民
ちぐそれ
心をうう人ト多(てを春ることをさん引うう年 民部乃定
ちをうう
心をううくうて四をいい四うりて歩うう人 賀茂保憲 作女
ふをう
心をうくういうるやに四ふ春 或記 紅葉記
いうをう
心をうくうい中うるうれて歩うう人き 菅大納言為房
号祝う
心をうくうう夢うう人りうこしあをう春 菅大納言 宗教
今をう
心をうよう中門乃まあはせいうのまむ 賀茂雅人
人いう
心をうしくうう祝の夢れうこん 権大納言 実治
をて中て
心をうう多れうこをとう世のうにいうう人 藤原乃量 作
ぐうこに
四をうれ人れ情のいういれき 菅原敦行 作
春をて
心をいうう中くにうてれひうあう人き 菅大納言 実房

新拾遺 雅上
かゝる
心よしと仕給ふ事をてそしらぬ世をうたてぬれ
源孝行
日 雅下
そしるなる
つゆいさとてうみくるむる世をいとはれ
従二位為子
風 恋三
見るなる
つよりて夢ぬ
二条院讃岐
新千 雅中
ゆしなる
心ゝ花ぬてあるこゝろみの月乃ちてゝ
西行法師
新拾遺 雅下
ゆゝしくすとけるの月まつ
西行法師
風 恋上
ゆゝしくすとけるの月まつ
新千 恋二
ゆゝしくすとけるの月まつ
新拾遺 恋二
ゆゝしくすとけるの月まつ
新拾遺 恋四
ゆゝしくすとけるの月まつ
新拾遺 恋四
ゆゝしくすとけるの月まつ
新拾遺 恋四

新陵古 恵四
新千秋 地下
新陵古 長下
日 秋中
新千 恵一
新陵古 地上
新千 秋中
風 恵四
新千 恵四
新陵古 長下
風 恵一
新陵古 恵一

ひらもと
わくうて
せをいと
せをいと
一ちらす
いさむる
人をうて
わかふ
多のまれ
いそて是
つりは
是をむら

ゆかすれまし　永正のものわんの歌
ゆをとそやひよ衣あらそ三月より
心うてもみわて　行のさうれ今ら行具　御安門院十宮相
ゆうてし心水れ　ゆみうき市に居やし所　權大僧都
ゆけさまと是と　ゆをとれと神より三原うれ　并大納言為兼
ゆをさまれ姫ゆて　少人乃定より地司した　中納言為俊
ゆむゆ〜き殺よ　ゆれよ地うゆとの作れ　入道并大政大臣
ゆ乃文すうら〜是　ゆ乃文すうら〜是　ゆ乃文すうら〜是　

新千 恵一
人さかな
建礼門院 左京督
後宇多院 宇治典侍

新後古 尺
くりぬき
ひろひそめ
ひとつ
ゆ
後宇多院 康守回冬

新千 新後古 尺 誹
あり
ものこと
なくや
月
ものの

新後古 恵 太 日 兼中
ゆきしら
れ人の
ものこと
なれ
忘
はかなき
後京極摂政 前太政大臣

新千 恵一
ふるさと
なつかし
むこと
ふるさと
後京極摂政 前太政大臣

新拾 新千 尺 日 尺
ふるさと
ものこと
なつかし
ものこと
なつかし
藤原基世
後京極摂政 前太政大臣

新千 恵三
人よ
ひとり
ものこと
なれ
ものこと
なれ
後京極摂政 前太政大臣

新拾 尺
ものこと
なつかし
ものこと
なつかし
ものこと
なつかし

新千 雜中
世をそむく
人しれぬ
新拾 恋二
風 恋一
人しれぬ
新千 恋一
人しれぬ
月 雜中
月 恋一
月 恋一
風 雜下
新後拾 恋一
新拾 雜
新千 雜
月 恋一
月 雜下
新後拾 恋二
新千 雜
月 雜
新後拾 雜下
新拾 雜
新後拾 雜
新千 雜上
新後拾 雜
月 雜
新拾 恋五

のがれ
ぬ
ぬ
ぬ

新拾遺 恋四 新拾遺 恋三 新拾遺 恋一 新拾遺 雜中 新千 恋二 新拾遺 恋一 新拾遺 雜中 新拾遺 恋四 新拾遺 恋三 新拾遺 恋一 新拾遺 雜中 新拾遺 恋四 新拾遺 恋三 新拾遺 恋一 新拾遺 雜中 新拾遺 恋四 新拾遺 恋三 新拾遺 恋一 新拾遺 雜中

新拾遺 雜下 日 秋上 風 雜上 日 雜下 新拾遺 恋四 風 雜上 新拾遺 恋四 日 雜上 新千 恋二 新拾遺 恋一 新拾遺 雜中 新千 雜上

心ひとつ
月をみて
風れ
わすれ
名をす
ものを
心ひとつ
ひきて
あるまに
ものを
ひとつ
ものを
ものせ
ものを
ものを
ものを

曰 如上
風 夷下
新撰古 離
風 新下
新撰古 新中
新千 新下
新撰古 夷一
新千 新下
新拾 尺
新撰古 尺
新千 文
新拾 文

ながめこそ　ものこそかなしけれ　あきの月をみるにつけても
なにはがたなみのうへこぎいでて　ながめやるかな　はるかのの月をみるにつけても
ながめやる　はるかのの月をみるにつけても
ながめやる　はるかのの月をみるにつけても
ながめやる

新拾遺 恋四
新千載
日
新
新拾遺 恋上
日
新中
新拾遺 恋上
新後撰 恋上
風
新下
新千載 恋上
日
姫上
新拾遺 恋上
新
風
正
新後撰 哀

さいかちの
まさきのかつら
いはそそけ
たるこに
あらこにい
ものを
みなくに
ものを
みなくに
ものを
みなくに

新拾遺
雅経

あれはて
さらこそ
はしたなく
こそ
一二
花
元

新後拾遺
天

はれぬる
こそ
ものを
ちいさ
ちいさ
ちいさ

新撰古歌　日　表下　新拾　新表　日　五上　風　姫中　新拾　天　風　夏　新千　文　新拾　新上　新千　姫下　新拾　新上　新拾　秋上

夜をこめ
いまいそ
とのゝむ
ふす月か
ちりぬる
舟よりて
我名のり
ありにき
ちりぬる
ちりすま
ちりぬす
く桜乃
ちりぬる

こゆる関路は雪の音やいそくにつけてをさ行人　従國家
こゆむしてて涙乃わとあさそれ未れ老心　中之大夫公　宇海
うらの花いまさうしいうて之を老れうゝ　前大僧正　宇相
ゆ地の雪はあとあてゆゆるほに如月平　馬内侍
てゝうくそあしあさそのあれ姫の月　水福門院
ちにむうつ関寺せうさに北ゝ迦　前大納言　乃兼
ちにあし時なかゆとしあとゆむ　鷹司院　按察
ちとものにくゝ歌れ今月れ元に　前大納言　乃世
ちとするあ月れ之ゆきるゆれ新　花園院　乃教
てよりあさらゆれとれるの平姫嘉　従二位弘氏
ちりぬうゝ之うるきゝ心れゆれ教れ乱　後光明照院　前内大臣　乃信
ちとあふあゝとりゝ次れれそに平ゝ　太政大臣

日　表　新拾　新中　新千　表上　新隠吾　姫下　風　夏　新拾　新上　新千　夏　日　冬　風　表上　新拾　天　風　姫上　風　新中

かきれり
ちとそき
のあり
ちとそき
ちとあり
ちとけと
ち姫や
ちとや雲
ちとまた
ちとそう
ちとれた
ちとし別
ちとする
ちとりれ

東宮傳国　後龍飛院　御製　前大納言　安教　大納言　信　伏見院新　宰相　伏見院　製　衣笠前内　大臣　法皇世禅　前大納言　乃兼　参議雅俊　水福門院　前大納言　安嘉

新勅撰 恋一
人をうら
なりしを

新千 恋一
こしらへ
わびて

新拾 恋四
月
年をへて

月 恋二
行末

月 雜上
くいる

風 恋一
多と世

新古 哀
わすれ

新千 雜中
月
恋

新拾 恋二
恨ても

新千 雜下
こたへて

新拾 雜
うれしき

こひしい身をしらせてうらめしき命をもかけてうらむる人を
こしらへなしたるうらめしきものかな
わすれなんとおもふ人
こいしいのりとなれらは今てをたに今をかぎり
こひわたりまれなるしるしをたのみ
こひしく行末はるかなる年月をたのみてをすぎ
こひしく行末はるかなる年月をたのみてをすぎ
こひしく行末はるかなる年月をたのみてをすぎ

新後拾遺 春下
はるかぜに
こすえそうらのみどりのいろなびけばのはる
後島羽院御製
新後拾遺 夏
こすえいわとは春ぞのいろのみどりのいろなびけばのはる
平中納言為秀
新拾遺 春上
あまのはら
こすえにうらはゆるとはるかぜに
新千載
新後拾遺 春下
花さそう
こすえにうつるやどるかぜ
後醍醐院御製
風 夏
あやめぐさ
こすえにふるあめにぬれていまぞさきぬる
平大納言為世
日 夏
ほたるこそ
こすえにあれにたぐひてまがふかがりは
入道二品親王
日 秋中
くれなゐの
こすえにやどるかぜのいろ
武平侯宣明記
日 夏
新拾遺 夏
花さそう
こすえにみしかの野山にとどまりて
[illegible]
新千載 冬
春くれて
こすえにうつるはるかぜ
平大納言為世
新拾遺 冬上
はれて
こすえにとまるゆきのつき
進士内記

日 冬
風 冬中
山ぶかみ
こすえにのこりてかすかなるかりがねのこえ
貫之
新後拾遺 春下
冬ごもり
こすえにとまるいとさへ春をまちえぬるかな
英大納言為忠
新後拾遺 春下
とはるかな
こすえにやどるうぐひすはるかぜに
宣秋門院 丹後
風 春中
しらなみの
こすえにのこりてさくはなのかげ
進士内記
日 春中
さくはなの
こすえにのこりてはるかぜにちる
朔平門院
日 冬
吹ちらす
こすえにのこりてはるかぜにちる
[illegible]
新千載 冬
はるかぜの
こすえにのこりてはるかぜにちる
桃大納言公孝
風 春中
はるかぜに
こすえにのこりてはるかぜにちる
民部卿為藤
日 夏
吹ちらす
こすえにのこりてはるかぜにちる
[illegible]
日 春中
花ちるさ
こすえにのこりてはるかぜにちる
芝蓬士記
日 冬
山かつの
こすえにのこりてはるかぜにちる
従二位為子
新拾遺 春上
はるかぜ
こすえにのこりてはるかぜにちる
英大納言為兼
こすえにのこりてはるかぜにちる
大炊大臣

風矢　ゆきのうち　こすえに雪やこりのこりて　花の末に　頼氏

日　はるの　こすえ乃日かすうりさきそめしわすれ山　永福門院内侍

新続古今　あけぬる山　こすえのくもりなかるゝ山ぢに　花の時雨

新拾遺　さく山ぢ　こすえ多やうるをむすびて　白いとより　坂鳥前院

新拾遺　ためのこと　こすえ乃ぬし　ぬれ山入あひ　〇上もとゝうる　芳中納言雅孝　衣笠内大臣

六百四首

新千載　誹諧　新拾遺　恋　新千載　恋

紅葉ちる　枝より〳〵ちるもの　時雨ふるとやは　頼基朝臣

さゝれ葉に　枝すゝ宮ゐ　みすわたして　道ゆく　春日潤宣

いまゝ　枝ゝ　ひろ　ゆ　ゆ　芳春門院

吹風の　枝ゝ　ゆ　ゆ　ゆ　御製

三ゝ　枝ゝ　ゆ　ゆ　ゆ　九條尼大臣女

春日やま　枝ゝ　ゆ　ゆ　ゆ　中納言資忠

風吹く　枝ゝ　ゆ　ゆ　ゆ　芳中納言

吹風に　枝ゝ　ゆ　ゆ　ゆ　皇太后宮大夫

春風に　枝ゝ　ゆ　ゆ　ゆ　俊成

ちるとて　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　芳茶谷為忠

ゆきまて　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　祖月法師　俊三位頼政

風　新拾遺　旅　巫部

新古今 恋中
新後拾遺 恋三
新拾遺 雜下

たてしなの　やまのしたもみ　なつかしの　ちるはなのかを　たれかとはまし　大納言直実

わいけたち　やまかぜふきて　なつかしの　ちるはなのかを　たれかとはまし　雅経卿

人しれず　思ひてふるの　さいけの花　ちるをたれかは　とはんとすらん　前大僧正慈円

十四首

風雜
新千 秋下
新拾 雜上
風 夏
新千 春
風 雜下
新千 春
新拾 雜上
風 冬
日 神
新後拾遺 哀

て

ほのぼのと　てにうりもらすて　ふれとあるは　君にをかくい　なとはいはん　源人不知

入月は　てるらんとおもふ　紅葉さへ　うつるはしるき　秋の山かな　惟宗親重

雲かくす　てるやはなれて　水なかれ　浦まてもとむ　秋の月かな　平貞文

わすれ草　てるはなれて　なきこゑは　なにをかなしの　秋の月かな　徽安門院

思ひ出　てるはなれて　なきこゑは　なにをかなしの　秋の月かな　前大納言為世

玉津島　てるはなれて　なきこゑは　なにをかなしの　秋の月かな　伏見院

なりはて　てるはなれて　なきこゑは　なにをかなしの　秋の月かな　權僧正慶政

心姫乃　てるはなれて　なきこゑは　なにをかなしの　秋の月かな　玄勝法師

くりかへす　てしはれをめる　君の代に　月はもとにつきて　なほ　後本朱雀院

どこやらを　てるはなれて　なきこゑは　なにをかなしの　秋の月かな　後宇多院

哀れなる　てるはなれて　なきこゑは　なにをかなしの　秋の月かな　俊宗安陪

新拾神風巻上

今日の秋こだみひわるかのよの月　従二位成繁

れ人乃　てとたにけ者れとれ葉数と思ふよひ人　大中臣能宣

十三首

新和歌類句集

ふ

たられ乃沼よりおく　夏草素法

吹ちらけ乃夜乃風に　小弁

はつ乃ゆ乃ちり乃あ乃の　白太原

約毎とけ乃ゆ乃ち乃　大山本前

なみ乃ゆ乃れ乃ゆ乃　能宣

ゆ乃ハ乃れと道乃ゆ乃れ乃ん　能宣

ゆ乃ハ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ

彰続古賀
彰松長下
彰続古祝上
彰続長下
彰松祝下
彰千衾傷
彰松衾
彰続古衾傷
風祝下
彰松立一
彰松祝右
風冬

平東盛
乃俣
前中納言
文信
三条左大
右大臣知
藤原仲文
清原経
前大僧正果寺
太上天皇
二条后
光明
平貞行
師仁親王
伏見院
前大納言
伏見院
沙弥義
前右兵衛
西園寺内大臣
藤原定
前大納言
氏

彰千立一
彰続古祝中
彰続下祝中
彰千祝中
風長下
彰松立冬
彰千長下
彰松冬
風祝祝
彰千立一
風冬
彰松冬

彩枝 雅上
彩続古 冬
風 雅中
彩続古 恋上
彩千 雅上
風 冬
彩枝 秋下
彩千 雅上
彩千 春傷
彩続古 物名
彩続古 恋上
彩枝 恋

ふるさとの
ふるさとの
ふるさとの
ふるさとの
ふるさとの
ふるさとの
ふるさとの
ふるさとの
ふるさとの
ふるさとの

前関白太政大臣
桂中納言雅世
永福門院 関白
前大僧正 覚後
後三位 為綱
費之
人丸
おなじ国 民部卿為家
宮内卿 為氏
梁塵秘抄 作者不詳

風 冬
彩千 春傷
彩枝 水底
彩続古 恋上
彩続古 恋上
風 冬
彩続古 恋上
風 春
彩続古 恋上
風 冬
彩枝 恋一
彩千 賀
彩枝 春
風 春
彩続古 冬

ふるさとの
ふるさとの
ふるさとの
ふるさとの
ふるさとの
ふるさとの
ふるさとの
ふるさとの
ふるさとの
ふるさとの

小納言俊
俊成卿女
後鳥羽院
藤原定家
藤原光俊
永福門院 内侍
三条院 御製
伊勢 大輔
実母 安嘉門院 一条
後宇多院 御製

彩千 祐上
彩千 秀上
彩抜 秀下
彩千 雅教
彩抜 霧
彩抜 雅教
彩抜 冬
彩抜 秀上
彩抜 秀上
彩抜 秀下
彩抜 秋上
彩抜 祐上

とうはうの人もこれを
春とこそ
一枚もみて
生まれて
行ひく
うゝし
人間さん
春をこそ
うりなれば
立ゝ
道生れ
神さいて

月を我方も見ぬ
ふるさと
ふるさけ
ふるれば
ふるよ
ふるよ
ふるよ

彩千賀
彩拾霧
彩続古秋下
彩千冬
彩拾冬
彩千水底
彩続古雑上
彩千冬
彩拾春上
彩拾春上
風五二
彩千五三

いさほの波のはるかにあらはれて
やとりはてぬるこの夕べ
てるくて袁年月
冬こそ月の野辺なれ
秋ぞもとまるよ
秋ぞもとまるよ
水底にあらはれて
月人をとこの野原
雲ふかの雨よ時雨もと
袖ぬれこそ海の雨と

雲にあらはれて
雲にあらはれて
雲にあらはれて
雲にあらはれて
雲にあらはれて
雲にあらはれて
雲にあらはれて
雲にあらはれて
雲にあらはれて
雲にあらはれて
雲にあらはれて
雲にあらはれて

前大納言為家
二条院讃岐
殷富門院大輔
二条院讃岐
後鳥羽院御
祝部成茂
津守国助
前大納言為家
後二条院讃岐
前大納言為家
藤原為家朝臣
中務卿宮
入道前太政大臣

氷ぞうくこそ乃言の葉
こほりとく風ぬるむ
秋ぞよ乃ぞさこそ
てのこの袁
あいこんとゆふ
風本こそ山路の雪の
はるかぶ山人
はるかぶ同じなる
うしぬを入ぬるもの
あるさこそ乃ぞ
ぬるて秋ぞいとも
こほれさぬ乃ぞ

雲乃言の葉
雲にとなる
ふこの雪
ふこの雪
ふこの雪
ふこの雪
ふこの雪
ふこの雪
ふこの雪
ふこの雪
ふこの雪
ふこの雪
ふこの雪
ふこの雪

彩拾春上
彩拾春上
彩千物数
彩続古秋上
彩続古雑上
風冬
彩千物数
彩拾天雲
彩拾冬
風
彩千水底
彩拾秋下

大納言女信
大納言為信
殷富門院
家歌合
摂政関白女
後鳥羽院御
貞代公
今撰集
中納言為
陽明文庫
前大僧正
前大納言為氏

彩千 秋上
彩千 春上
風 春上
彩抜 春下
風 冬
彩抜 春中
彩続古 賀
風 賀
彩続古 春中
彩続古 春下
彩続古 賀
彩抜 雜

天の川人の舟渡し久しとうらとしらるる舟の
やしをやどかしてあまぐもの衣ふ
彩をれ梅の花ちるも
あるとみるまで乃多ふ
春の立ちかすみ
あるとみるまで乃多ふ
春の立ちかすみ
あるとみるまで乃多ふ
春の立ちかすみ

彩扨下
彩続古五文
彩続古物名
凡天教
彩扨賀
彩続古雜
彩千新上
彩続古文
彩続古秋下
凡文
彩扨新上
彩続古秋上

足曳乃山のこゝし
さへも京なつかしわそ
伊勢路や真川清
れ乃ゝ行れ之の末
きゝめ尾上乃松
ことのゝをまて末
あゝ波乃濱松乃えと
夕立乃雲吹ぬけと
ゝ乃ゝ野原志菊
ゝ乃あ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

坂内紀
蒙
源人和
枝人条入
お内本
あ内和
巻長
花園院
上蒙
梅宿乃我
枝大納
忠秀
後嵯峨院
前太政大
臣
後宇多院
御乃
入道二品
親王定巻
源師光

彩扨秋下
凡冬
彩続古秋上
彩扨春下
彩扨冬
彩千春下
彩続古五二
彩扨五文
彩扨賀
彩続古春下
彩扨秋下
彩千新上

小ゝ乃ゝ畠れ菊菜と
し女子ゝ乃ゝ通ゝ
ゝ乃ゝ打ゝ乃ゝ萩と
乃ゝを末ゝ行り先
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

風方

彩千文

彩抄文

風非上

風冬

彩抄非去

彩抄秋下

風立二

彩続古冬

風秋中

彩続古非上

風冬

彩千立二

彩抄秋上

彩続古冬

風秋下

彩続古立三

彩抄秋下

風立冬

風非下

風立上

彩続古立下

彩続古立上

風非中

風 新上
風 新中
彩続古 三下
風 文
彩扶 冬
風 新中
彩扶 秋上
彩続古 三一
彩扶 秋上
彩千 三上
彩扶 三下
彩続古 秋上

あらふとせりて秋よ
なかつる松乃ちりて
本乃下れをれつゝ
なあふ夜を松と
園のうへつゝこれを
こゝろのうをれ松原
深しさ乃ましりよ
ちつゝや宮乃松と
悔れなやみれ秋
来ゝれ乃われ宮ゝ
山乃ふもれ乃ゝ
ゆくゝれ畏乃菊原

ゝるこあよをゝて風乃情とゝりん
ゝるをて松乃ちりて風乃ゝ乃ちりむ
ゝるて風ゝ松あつて乃白雲
ゝるて風をゝる月嶺さ
ゝるて風て松の月ゝ色乃
ゝるて風ゝ入あしの れ
ゝるて風ゝ松やゝ紅
ゝるて風ゝ秋乃初を
ゝるて風ゝ秋乃初風
ゝるて風ゝ秋乃ゝ
ゝるて風ゝ秋乃ゝ

源貞世
為家乃ゝ女
五宮上人
前関白 九条
松中納言 入道
民部卿定
前宮内卿 集
皇太后宮大夫 俊成
松大納言 義清
後嵯峨院 前太政大臣
光明峯寺入道 前摂政太政大臣
前中納言 定家

彩扶 文
風 文
彩扶 秋上
風 三下
彩扶 新秋
風 三下
風 秋下
彩扶 秋下
彩続古 新上
彩扶 新三
彩扶 秋下
彩扶 藤原

てゝるに来ゝれ来紫ゝ
悔乃あゝ風ゝ来れて
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝるゝ乃ゝ乃来よ
ゝるゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝるゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝるゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝるゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝるゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝるゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝるゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝるゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝるゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝるゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

俊成 出家
二条院 讃岐
式子内親王
俊定歳 出家
遍昭 僧正
前内大臣 文
俊恵法師
後鳥羽院
中関入道 前太政大臣
上西門院 女房
源義朝
藤原師

彩抜 長上
彩抜 長下
風 新上
風 新中
彩抜 秋上
風 秋上
風 秋中
彩千 色々
彩千 新中
彩抜 新下

まつ山ゝ雲とはなるそよ
さをしかの雲を入れて鳴く
鹿の声を入れて鳴く
かりの声をいそぎ雲
羽をかわせる萩の
彩風を秋の面
度の面よりの風を
長風を柳のいとを
うら風に溪のあしに
いなびく方を秋風の
彩うらを秋のうら風
秋のうらの風

なびくなり夕暮ゝ山の松
山の嵐も暮るゝ秋
なびくなり夕暮ゝ山の松
なびくなり夕暮ゝ山の松
なびくなり夕暮ゝ山の松
なびくなり夕暮ゝ山の松
なびくなり夕暮ゝ山の松
なびくなり夕暮ゝ山の松
なびくなり夕暮ゝ山の松
なびくなり夕暮ゝ山の松

土佐守 小三位
実日本 九下
九四位 四号
佐々 四号
長家 九下
永福門 四号
佐々 四号
佐々 四号
永福門 四号
長家 九下
九下
小右記 九下

風 秋上
彩抜 冬々
彩抜 冬々
彩抜 冬々
彩抜 冬々
彩千 新中
彩抜 新上
彩抜 新上
風 冬々
彩抜 冬々
風 新上
彩抜 冬々

みなとの浦の夕暮ゝ山の風
紅葉の山の風吹くなり
なびくなり夕暮ゝ山の松
なびくなり夕暮ゝ山の松
なびくなり夕暮ゝ山の松
なびくなり夕暮ゝ山の松
なびくなり夕暮ゝ山の松
なびくなり夕暮ゝ山の松
なびくなり夕暮ゝ山の松
なびくなり夕暮ゝ山の松

彩抹々
彩抹々
彩抹々

新千 立三
新続古 冬
新続古 神祇
新千 秋上
同 神祇
新千 夏
新続古 立夏
新拾 立一
同 冬
新続古 雜
新拾 立一
新拾 立一

ちはやぶる神のいがきに
なれぬれば
ふるの社の
ほとゝぎす
なくこゑ
ふるの社の
ほとゝぎす
なくこゑ
ふるの社の
ほとゝぎす
なくこゑ

新和歌類句集

こ

彰考館本下　山桜ちりぬまつの
彰考館本上　ほとゝぎすよるなきの六月の
凡　新古今　夏
彰考館本　神なづきなかばすぎ
彰考館本　七月ばかりの夏の
彰千　新下　そひてしてもせすぎ
彰考館本　新中　ひとりのこりのこれり
凡　文　夏ふかたにいとなる
彰考館本　羽根
彰考館本　秋上　ふしぬそ山ちるる
まつ人ぬれてしこの
こゝろわもあちらこたさうり
ほとゝぎす夏の月ちなくらん
ちりにけりすくまてそこ入
ちなくさのを待ぬるのはつ
ちとゝわ夏しかまをちる
ちてつかるちるの今駒力
ちてはゆりまてそ嘆りの
ちてもとゝいそのまをへ
ちまるよ夏のとろ月の
ちてて月をて宿とうち
は平四々　花中納言家宣
院家集　出典小三オ　已前ちり　夏九下
ちる人　ちる　ちる夏大納言
花中納言　ちる
花中納言　ちる
花中納言　ちる
花中納言　ちる

彰続上
風
彰抜
彰千
彰抜上
彰抜
彰抜
彰抜

彰於尺教
彰千尺教
風新下
彰於水
彰千尺教
彰長立文
彰於立文
彰後古新中
彰後古新下
風立文
彰後古新下
風立文

かりにうえたるこのこころにとまりて人わすれのみん
一ぐそくをくへきあるこころとなれやうほうたるん
厚世とはなんて浮ぶ
こころわとを弘方にかりになりてう之
はふんこ方を新はれ
心ぐりとさ分う衰と神やたるこん
雲よりうふいやをこ
こころりとたてたるに迷いにけん
こころりとたるにいそぶんぐるみの
こころりあけたるにのはをたるる
こころりもたるたてがうを先ぬれ
こころりもあるこころのるをたるく
こころりもあるこころ又ぬめる
こころりも身をふれてはをかりの
こころ〳〵なれたる若生をこころり

九条兼実 玉葉
寂恵 俗名大下
源仲教
祝部成盛
法華院信
大蔵卿
信濃国 長盛
前大僧正 果守
源守行 教長
坂二位殿
前左兵衛督 盛親
前左兵衛督
人丸

彰後古賀
彰於立文
彰於立文
彰千立二
彰後古新中
彰千新上
彰於立文
彰千新上
彰千立二
彰後古新中
彰千新上
彰千新中
新於新上
彰於立二

あるこころのるをたるこ
こころ花の花の花を
ぬるこころ心の山寺
いるる橋なるこの里人
まれたるこ若木桜を
あるはるこころるる響
ものるの月わを井の秋の
たるる西のるる市人
心ぐるるけるるわ
久かるこの月をたるこの
こるるを之井の花を
ぬるいれるるのるる

こころ〳〵ふるる百代のる
こころ〳〵るるかるるこはるる
こころ〳〵とくるるるる咲ん
こころ〳〵るるるる袖るるやと
こころ〳〵るるるるるるこ
こころ〳〵かるるるるるると
こころ〳〵るるるるるるる
こころ〳〵るるるるるるる
こころ〳〵るるるるるるる
こころ〳〵るるるるるるる
こころ〳〵るるるるるるる
こころ〳〵るるるるるるる
こころ〳〵るるるるるるる

桂中納言 雅経
前大納言 公任
枝葉和尚 上人
前右兵衛督 経盛
枝宮女院 上人
黒谷
野宿守
法華院
源氏経 朝臣
源教房

新千秋上二
彰後百五一
彰於嚴振
新千歌
風雅下
風五八
彰千夏三
彰於雜下
彰於五二
彰於雜下
彰於五三
彰於五二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

凡 底三
彰抵 天常
彰続古 底一
彰続古 底四
彰千 底一
凡 底三
凡 底三
凡 底三
凡 底三
彰抵 水
彰千 義傷
彰続古 水海

人しれぬ　こころのうちの　やまとゐの
さはぐなみ　たちかへりて　ぬれぬれぬ
露ぬれし　ものとおもふ　あさぎりの
方をうらみて　さめぬ恨
初雪の　なごりの　ふるしの
花の色　露ももろ　ぬれ
宮ぬ　ぬれぬ
ぬれぬ　ぬれ
ぬれ　ぬれ
ぬれ　ぬれ
ぬれ

彰千 恵人
彰千 兼中
風 恵一
彰千 教方
彰続 恵人
彰千 兼中
彰千 兼中
彰千 兼中

彰於
羅

彰続
亟三

彰於
亟三

彰千
亟八

彰続
秋上

風
亟一

彰続
秋上

彰続
秋上

風
秋上

風
亟三

彰千
秋苔

彰千
秋上

あけぬれば春の衣
こそいとゞほすてやるまに秋にとゝん
立ちのみやびをこそ
こゝらいとゝもゝをぬ下いとけ
さわぐこゑ夕まぐれ
こゝらいとゝあるこゝに秋しらしわるこゝん
こゝにいとゝ秋の風
こゝらいとゝ
さしわるこゝとかこれて
こゝらいとゝ
こゝらいとゝ
こゝらいとゝ

彩千 雜上
彩千 哭
凡 秋上
凡 雜中
彩千 雜中
彩千 秋下
彩於 恋二
彩続古 冬
彩続古 恋三
彩続古 雜階
彩於 哀
凡 恋四

かり初のうらなるも
うらめしく思ひそめてし
物わすれしてすぐしし
のちのよはの
夜代の夜れ松風
袖田山尾上の松風
つもしかの月れるの
ゆふもつゆ霧れ
なうへてみしあいもむ
花をみよ面もあかな
芝川の山ほとゝぎす
ひとなるあはすも

こゝろ宿れ花をみれ人わすれん　後拾遺
これ宿の月も昔をうつしてる　拾古今
こゝろもり落ち月とゝ何の夢　後嘉撰
これもちとにくるゝ涙のつゆ　後二條撰
これもちゝ夕月みゆる清滝山　前大納言
このもとみうとろ松れ紅葉　お大納言
これもう空を花とうつろいはてり　前大納言
こゝろも日数とたゝもつ何夜ふ　はるかなる
これもの数をうへ命ゝもふ　俊成三位
こゝろ花のとふ人ありしも　読人知
このもいつるゝもわすれうん　藤原俊
こゝろもいえも人うゝもしし　摂津御

彩於 雜上
彩於 雜中
彩於 雜中
彩於 雜上
彩千 雜上
彩続古 雜中
凡 恋四
彩千 哭
彩続古 冰清
彩於 雜中
凡 夏
彩於 冬

ちとゝ松とわうもわ
ふるゝうたのうらゝ
ふもゝ牛松わしもふ
色もうの松の梅
ふゝうゝ人うのわ
見ゝうの梅ふと
ちうなく作ゝ浪や
前代もこゝかうう
ひかるゝ空ゝ
立ゝ松わすれ
ゝもあの月をかい
美濃のどうゝ

こゝろ松とゝ行ん松とうふい　前大納言 実教
こゝろやゝ月ゝ雨神ゝ　前大納言 教定
こゝろ松や物ゝ月ゝかゝりゝ　小弁
こゝろ春ゝ花ゝ恋の春ゝ　前大納言 為氏
こゝろ里ゝ月ゝ花ゝ行ゝ　前大納言 兼宣
こゝろ里ゝ花ゝ春ゝ雪ゝ　後二條
こゝろゝゝ春ゝ人ゝ作ゝ　後宇多院
こゝろ春ゝ雨ゝ月ゝ　平貞時
これ花ゝ学ゝ春ゝ行ゝ　赤松俊
こゝろ春ゝ花ゝ雪ゝ　前大納言 為世
こゝろ下ゝ秋ゝ小ゝ　進子内親
こゝろ下ゝ春ゝ松ゝ　源貞世

風雅上
彰考前
風雅下
彰考前
彰考上
彰考下
風
彰考前
彰考上
彰考下
風
彰考前
彰考上
彰考下
風

彩抜 雅上
彩続古 哀傷
風 雅下
彩続古 雅中
彩続古 哀々
風 恋々
彩千 雅下
風 恋二
彩千 恋三
彩抜 秋下
彩抜 尺哀
彩抜 哀々

ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃

花園院御
宮内卿
二品法親王
定家卿
前大納言
伊尹
紀貫之
後鳥羽院
御歌所
藤原定家
前伊勢
守俊
法眼浄弁
おなじ御
方御
後白河
原光忠

彩抜 秋上
彩続古 雅中
彩続古 秋上
彩抜 雅去
新続古 雅下
彩千 恋三
新続古 恋三
彩千 恋一
彩抜 恋三
風 雅上
彩抜 恋一
彩抜 雅中

ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃
ゆるこんめを拾ひ心乃

花園院御
宮内卿
二品法親王
定家卿
前大納言
伊尹
紀貫之
後鳥羽院
御歌所
藤原定家
前伊勢
守俊
法眼浄弁
おなじ御
方御
後白河
原光忠

彩千 新中
彩枝 文
彩枝 点一
彩続 点ハ
彩枝 点二
彩千 新中
風 雅下
彩続 非潜
彩千 名
風 点ハ
彩 名
彩続 名

彩千 新ハ
彩枝 点二
彩枝 非底
彩続 点一
彩千 点三
彩枝 点ハ
彩枝 点ハ
彩千 新下
彩続 文
彩千 ミ上

彰考館本 五一
風雅中
新拾遺 五三
彰千 非藏
彰考館本
彰千 雅中
彰考館本 秋上
彰拾 秋下
風
風 秋下
彰考館本 恋下

雨ふりぬるとしは相し
枝乃花はなほ咲風を
遠近乃山ふ付多に
うらうらは月くも
みるなくらゝ乃風
にうるものあはゝ乃仙人
好らて乃風はやうゝ
かすはさくもつゝ乃
うゝを春をこゝ春を
長月乃菊はさうゝ
笑うあふ月を遊
花さうふ風ゝ咲も

こゝろをよ我下もしゝ乃ゝい乃毎を
こゝろをよ宮ゝうゝ乃ゝ乃ゝ乃村
こゝろをよみもこゝ以ゝ宮ゝうゝ
こゝろをよ花乃ゝ乃井乃花の下風
こゝろをよ文こゝ高ゝ乃ゝ乃花
こゝろせよ山ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
こゝ乃ゝをゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
こゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
こゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
こゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
こゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
こゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
こゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃

山階入道 あきたの
前大納言 為兼
権大納言 義治
後鳥羽院 御製
隆信卿
大納言 師賢
入道一品 親王 尊円
西行法師
宮内卿 定家卿
山階入道 前太政大臣
家隆卿 秋下
源宰相

新千 秋上
新千 恋下
新拾 雜中
彰千 雅上
彰千 恋上
彰拾 恋上
彰拾 雜
彰拾 雜
彰拾 恋上
彰千 雜拾
彰千 雜中

いるゝん世ゝも忘
れ人をゝもゝていさん
はゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
こなゝて世人ゝ恋
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
我ゝゝゝ年れ拾
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
民部卿
後鳥羽院御製
前大納言 忠宗
俊光卿 御製
大納言 為氏
入道二品 親王 尊円
宮内卿 定家卿
北畠権 中納言
後宇多院 御製
伏見院 御製
後宇多院 御製
作家者 秋下

彰考館本三
風談
風帳
彰千羽帳
彰於秋下
風非祇
彰於夜
彰考館本冬
月を見て
彰於羽帳
風祇下
彰千祇下
彰於天部

てう宮よりあつまりて
こしのん殿多江を宮の事を
こしらへて宿とふ里にてう月を
てう出くはのうへ
てう出くの月をかたらひの秋の夜人
てう出て秋代乃御やとなれの
てう出て庭をにてう如毎大ぬを
てう月て多ちてあらわれ
てう月を見くてあり
てう月いたてあり
てう月て立乃ぬるん
てう月なつかしとと秋
てう月はよみさしい

入道一品
親王宮
延政門院
新大納言
なめ法師
源頼朝
入道
入道
大納言
内大臣
内大臣
内大臣

彩千秋下
彩於雜上
新千々
彩続古々
風
彩千
彩続古雜上
風
秋上
彩於雜上
風
雜中
風
雜中
彩続古羇

うみをいでて野へよ
り行くやまと歌の
ゆくすえは夕浪なく
なみの月をもれる
水のおくをもる蛙の
山のもに書ふ廉の
落てもる相の一系れ
ゆくなる那なる海の
山をわたる入れの
暮をもる松をもる蛙
山風をこれる松り
はるるる那なる海の

はるて
はるて
はるて

風文　彰抜文　彰抜新　風文　彰千文二　彰千文二　風文　彰抜文二　彰千文二　風文一　彰抜新上　彰千新中

彰抜文　彰千文又　風新上　彰抜文　彰抜文二　彰千文一　彰抜文一　風文　彰抜文　彰抜文　彰抜文一　風文

風雅中
彩抜抜 五一
彩千 五三
風 五三
彩千 雅下
彩抜 五二
彩続 五二
彩抜抜 五二
彩続 洲清
風 五一
彩千 雅上
風 名

むつきなかばのころ
八月十五夜
月をみて
ことさかなどもとりあつめ
ことさかなどもとりあつめ
ことさかなどもとりあつめ

風吟 新撰 新千 玉下

吟風乃さそふこゑ　こすゑわたる松乃春そさいふ　天陸の花お雪の中下

今時くこゑ春乃雪　こすゑわ晴ゆ春乃月ふ　進士貞

うゑ乃月乃　こすゑそやて花乃やうめ乃　乃乃部下

新和歌類句集

江

風 雜中

山人乃ゆ乃ふ世乃　立ゑ乃ふ世乃　立ゑ乃ふ人乃ゆ乃ふ　後徳寺

風 冬

緑やゆ乃ふ世乃柳ハ　立ゑ乃ふ世乃　立ゑ乃ふ人乃ゆ乃ふ　章義院

風 恋

はるゑ乃ふ世乃ふ　立ゑ乃ふ　立ゑ乃ふ人乃ゆ乃ふ　校大納言公陰

新後古 恋一

人ゑ乃ふ世乃ふ　立ゑ乃ふ　立ゑ乃ふ人乃ゆ乃ふ　一文紀伊

新和歌類句集

て

彩抜 秋上
風くさの花の露をてにかけて袖にぬきとる秋の白露
皇太后宮大夫俊成

彩千 冬
ふりはてぬ今はたのもしなに村雨の
権律師[illegible]寺

風 恋
天の原八十路のうへてる月の光をうつす宿の池水
前大納言[illegible]

彩続古 秋上
天はらす世をてらすてふ秋の月
前中納言定家

彩抜 賀
秋ふかき池のうへてる月のかげやてん
[illegible]

彩千 雑上
ていらはやたれ月ぞ
清隆朝臣

風 恋一
河ぶくかぜのてふ
[illegible]

彩千 恋
てるらんよ人のこころのうらはをてる
[illegible]

彩千 恋傷
とてもうき世をなにてもてる人をかなしみ
[illegible]

彩抜 恋
ものうきなれをてるてふ
清原定方

彩抜 恋
袖ぬらすてるてふ
冷泉

風 恋
数ならぬ身をてふ新
源[illegible]

彩抜 恋
てるてせうてふ宮ぬれぬ
[illegible]

風 恋
てるの日を[illegible]
皇太后宮大夫俊成

新拾 恋
思ひなるてるてふ
[illegible]

彩続古 恋三
てるてをてるてふ
[illegible]

新和歌類句集

ぬ

新拾遺　晴やらぬ山の月の面あすの川　山ちかき里やあらしの音ぞ　権僧正真行

新千載　ちらぬ花ぞ井のもとの水流　ちらぬ花ぞ井のもとの水流　後鳥羽院御製

新続古今　春日山松のあなたの夕日影　ちらさじ宿の池の白波　貞定

新続古今　ちるとみるそらにうもれぬ心　ちるとみるそらにうもれぬ心　貸信院御製

新続古今　ちりかかるかつらの滝　ちりかかるかつらの滝　後鳥羽院御製

風尺　ちりとまりたのむとなるは蛍川　ちりとまりたのむとなるは蛍川　平忠度卿

新千載　山里のあかつきの風ぬれそぎて　ちりとまりたのむとなるは我身　信実卿

新千載　いのちをよせてちりの白雲　ちりぬ代のかなしく我ぞ　為為朝

新千賀　とまれかの井の面をかすめて　ちりぬ代の名をとどめ　源為朝

新千載　名残ぞ萩咲ぬふる風の音に　ちりぬ言をかしもつ　大江

彩千　冬
凡　冬
彩千　新上
彩捻　忘又
彩捻　新上
彩捻　去上
彩捻　忘一
彩千　新上
凡　新中
彩捻　新上
彩捻　衰
彩捻　新秋

みちわくはうせたる白雲
たのもしとそもう神の白雲を
もしてこそ月にすみて白雲
はさたてのうつゝ月をあの雲の
なをたんみかるをそまりおはて
いかに一の日の雲を仏をあまは
たの雲をうたみたるを
うるうて月をあはをを白雲
はをとをひうさく雲の雲は
去をを雲のををいさゆう日ふ
ををを懐らりにう倦く
仏ををて雲れ雲は雲をを

神千　神
彩捻　秋
凡　冬
彩千　去上
彩千　新上
彩捻　忘又
彩捻　新上
彩千　新上
彩捻　冬
彩捻　冬
凡　旅
彩捻　去下

百を世をはうひとうり神代り
いく世ふる神のうるはれあめし
はをりてをはいしまれ世をを
いををやを去をにをしあの家
初月雲この名ををめうりをて
をの主のをを海をのをををうは
去をせて神ゆををや去雲の
はををうて月雲をて神去月
雪日ゆう神をの雲代雲月雲
うををて日ををたうり月村月雲
をうりて月をををくう月はよう
ををを月雲雲ををうをを月
ををて人の雲を雲をく
ををを雲をを月はをうはをて
ををを雲をを月の白雲

かりてをうをを代演松
かりてをうを代演松
かりてををかりを雲雲
かりををををををを
かりををををををを
かりををををををを

凡 夏
新千 雜下
新千 秋下
凡 夏
新後拾 雜中
凡 雜中
凡 雜下
凡 夏
凡 恋
新後拾 秋上
新後拾 旅
新後拾 旅

うとかりきとの山の紅葉
かさまていそちもあいそ社神
れも年の時雨やれ化やそ紅を
三輪川の水世紀はまてそ新
打ち寄人いけるまけまを
あ世すてそうひ秋を
横ちうつふい雪とれを
あやをい吹てまてもの月新
れとまいはれやあつきを
さ紀てこそ聖市れまうの紀
紅葉をいてくに紅て旅つる
行桜いるれ秋てよかり弱を

かりとをもと人の心よ
ちらくみりまをれ
ちちをみ暗て山
けて立すしる
山路の紅葉れ
ちを月の日
ちを人よきてを
ちを里人のれとまん
ちをに紅れ浦波
ちをとうとかる
ちをたれやかと
ちをなよう秋る
ちを桜をみれの

新後拾 雜下
新後拾 冬
新千 冬
新後拾 雜上
新千 恋
新後拾 雜長
凡 旅
新千 雜中
凡 雜上
凡 雜中
新千 秋下
新後拾 春

中務卿宮廣平親王
康守因助
法印宗隆
英朝為定
民部為爰
有範朝臣
後鳥羽院
法皇西行
聖徳太子
藤原為相
法印宗隆
式部卿敦明親王

新千 雨中
新千 春下
凡 夏
新続後 雨秋
新続後 冬
凡 秋下
新続後 雨下
新千 春
凡 雨上
凡 春上
凡 雨下
新千 秋下

新続後 雨上
新千 春上
凡 春中
新拾 恋又
新続後 神
新千 春
凡 雨下
新千 秋下
凡 雨下
新続後 秋下
新拾 旅
新拾 夏

春雨のやまぬ日をとて
百敷のやもの音にはあらねども
春雨のふるとはなしに
春雨のふるとはなしに
春雨のふるとはなしに

凡 忘三
新後拾 天
新拾遺 郡秋
新拾 祐
新後拾 祐
凡 郡下
新後拾 忘四
凡 忘三
凡 郡上
凡 郡上
新千 郡中
新拾 忘一

新後拾 忘四
新千 忘二
凡 祐
凡 郡下
新拾 天
新後拾 郡上
凡 友
新拾 祐
凡 哭
凡 天
新後拾 祐
新千 祐

彰千 神
彰撿 天
彰撿長 天
彰千 新下
彰撿 新中
凡 哭
彰千 嶺
彰千 嶺
彰撿 新秋
彰撿 吉上
彰撿長 別
彰撿 嶺

はつてそてくあめこいろ代のあひつて　康和四年
おもうあきのあつけとあを　藤原宗忠
入月とてふ四の海とあらは　前参議
二ひてるもとけいこそは　前参議
二ひあはけそうのき　永縁院
二ひあはけそうのき　藤原廣良
二ひあはけそうのき　藤原廣良
二ひはけるこ海の松　廣資王母
二ひみて第海ちい松　前参議民
二ひ山のまれはのの　前参議行朝
二ひ山のまれはのの　後人知
二ひ山のまれはのの　後人知
二ひ山のまれはのの　後人知

風 秋下
新続古 恋三
新拾遺 夏
新拾遺 冬
新拾遺 雜中
新拾遺 冬
風 雜上
新続古 恋三
新千 雜中
風 秋中
新続後 雜秋
新千 秋上

たゝむこゝろふかく心をそれて
こぬ人のうきをもつらぬ塩の音に
今はむとたのめやそれて後
冬さえ枯の風の音哀
あ[illegible]り塩みちくしあまの川せ
五郎よ音に聞てあまの川の磯
ハ秋てよみあはせや秋の月
ふりぬ我ひとりをへ河ゝ
冬の月のうつるを見て
りひの方ハ稀よすがら世を
池のうちみさもなかりしも
雲うゝ面ゆれしの秋の世う

あをいとあはれもて世界 匡房卿子
あをまてハ恨うらは 清原元輔
あけぬうの乱りと伝て 坂上是則 歌人
あけて夜の月よるの也 今出川院 右大臣
あけるの浦よ月ゝ浦 源俊頼朝臣
あけるの海よ月新 後鳥羽院
あけて八新の月ま 法華経
あけて八ゆりと雲ま 菅原為忠
あけてこゝとゝ海ま月 桜町中納言朝隆
あけてゝたけ[illegible] 前右大臣
あけてや変を[illegible] 信快法師
あけてまの月ゝ海の 藤原為忠

新拾遺 秋下
風 恋二
新拾遺 冬
新続後 夏
新拾遺 秋下
新拾遺 雜上
風 恋二
新千 恋三
新拾遺 雜下 知名
新拾遺 雜下
新続後 秋上
新拾遺 天

秋風の国ふきまく吹ふ
ふくむ中八めよさりかやゝを
吹ゝ面ゝ月ひのしをさこゝ
月と三山ゝ[illegible]ゝ
さ秋ゝ[illegible]ゝ川ゝ
ゝれあの拾遺の[illegible]
あのまひまゝあまゝ
河ゝとりひゝ[illegible]
恨ゝたゝみ[illegible]
ゝの川ゝの白波ゝ
ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ

あけて月ゝ[illegible] 後鳥羽院
あけて[illegible] 光明峰寺前右大臣女
あけの風ゝ[illegible] 匡房卿
あけの空ゝ[illegible] 今上御製
あけの神ゝ[illegible] 参議長綱
あけの月ゝ[illegible] 左京大夫基氏
あけの[illegible] 藤原為忠
あけの[illegible] 藤原為忠
あけの[illegible] 藤原為忠
あけの[illegible] 藤原為忠
あけの[illegible] 藤原為忠
あけの[illegible] 藤原為忠
あけの[illegible] 藤原為忠
あけの[illegible] 藤原為忠

新千 郭中
年のあけぬれば春たちぬとて
佐大信卿 宗綱
あかつきのかすみのうちの春の風
新千 郭中
春たつとなのりもあへぬ
新千 友
ときわかぬ春の山の風
春たつ山の
新続古 神
花と咲く梅の香をとめて
春の霞の
風
春の
新拾遺 冬
ゆきとけぬ春の山の
春の
新続古 春下
山ちかき春のあけぼの
春の
新千 秋上
立ちかへる春のあけぼの
春の
新千 別
鶯のなくあけぬる浦せより
春あけの海の風
新続古 郭上
さの岡や秋の霞とあさ川せ
春の月の
新拾遺 冬
あさ川せ
春かすみ
新千 郭中
をりわすれ門田のいなもりの
春たつ
二条院讃岐 円融院御製
春たつ
伊周卿 二条院親王
春たつ

新拾 郭上
ちぢの秋の海やゆきけく秋せれ
新拾遺 冬
冥山のあの葉を落て
風
そめふる雨の音のもりにきえ
冬
新千 冬
しぐるるこの山ちかくなれば
新続古 郭上
ちぢと雲をもとめ山の中
風 冬
山のもの雲のひかりにそれ
新続古 恋又
ものをのもの
新千 恋一
恋の山ちかくなれば
新拾遺 秋下
とはちぢくいの村の雲夜
風 秋下
吹ぬる風にそれ竹の
新拾遺 旅
雲のうき雲の山のもの
風 春上
もや雲あやうしはすらぬ

後鳥羽院御製
春のあけぼのの月新
源重之女
春のようふ月新
正三位経家
春の雲にたなびく春の池水
春宮大夫
春の日のうらゝ
春山院御製
春の日のうらゝ
四条宮の
春の日のうらゝ
春の日のうらゝ
春の日のうらゝ

彩子冬
凡
忘
彩子忘一
彩子忘一
彩撥
彩子忘一
彩子忘一
凡冬
彩撥
彩撥
彩撥
冬
彩撥
春下

[illegible]
[illegible]
年とへてしつと示あるとや
[illegible]
むとて[illegible]
[illegible]
[illegible]

彰後鑑 耶下
彰拾 秋下
凡 秋中
彰千 冬
彰拾 天
凡 夏
凡 冬

霧晴よりすへて後はく秋はて
山の松のはのはのはのはの
山のとをそめなしかはの
ちりぬるかの山の紅葉
紅葉なる根の色はかはらて
夏山のあけぬるかの
色かへぬ民はやとをかは

二条院讃岐 元暦
信濃師
嬉門親王
衛門督家
皇太后宮大夫俊成
藤原親盛
大上天皇

二百十首

彰千 夏
彰千 恋四
彰拾 秋上
凡 夏
彰千 冬
彰後鑑 秋下
彰後鑑 秋下
彰拾 秋下
彰後鑑
彰千 耶上
彰後鑑 耶上

右

なつのつゆ
あのやうやうかはる
ちりのこるもみちの
所のかたもなこそ
深草山のかすみ
はるかすみ
月はなほ
ちりのこるもみちの

中宮大夫公宗
二条院讃岐 新古今
英朗公薩
藤原俊定
英禅寺尊寿
後鳥羽院
藤原行家
藤原行宗
藤原定家
藤原御製
藤原雅頭

新拾 夏

新拾 新秋

新拾 天

新千 恋一

新拾 天

新続古 別

凡 秋下

新続古 秋上

新千 雜

新拾 非上

新千 冬

新続古 秋上

ひさかたの空はかすみてをちこちの
山もあらはに立やとぬらん
月かげは立やとぬらん
をちこちの神よりけり和歌
なにはなる紙みくしにとりそへて
せきあらの神のおもてをかけ
をちこちの山をたのみてかけ
わつかちよりつもりたるかな
中務卿宮
ひさかたの月の秋の日ふ
水ぬきの岩の高原かきつ
吹ぬ風の声なし 源
秋ふかき山のけの宋の戸な
月雪のかきつそれは白雪の
ひさかたの秋の戸あの

中務宮 賜花合

加茂法師

重河上人

二条院親王 益信

侯人公

藤原顕綱

貸院御歌合

霧の定家

藤原定家

伊勢

藤原忠俊

源宣明

凡 天

新拾 天

新続古 秋上

新続古 秋下

新続古 秋下

新拾 立二

新拾 秋上

新続古 秋上

新拾 冬

新拾 冬

新拾 冬

うき世をいとはぬたちのよ
いとりはとりもとをあきはを
天津おつ雲もゆ雲ふる
ふるのをめ東をしよ結滝
ふるのををををををををの
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを

新撰　新上　冬

ひしゆうの山風たちそめて色づく
ことの葉は池のあなたの三略の
雲ちりとけやうの池のうの
秋の月

新撰　冬

萩のたもとのおきもとしてを
ハ
ちりまさりつゝ月もしをれて

風　秋下

冬

ちりまさりつゝ月新
ちりまさりつゝ月新

新撰　新上　秋下

冬の夜の月新しき雲のなか
ちりまさりつゝ月新

新千　冬

野辺のうつろふ雲の消てよ
ちりまさりつゝ月新

新撰　春上

春の日の浦やうせてあ
ちりまさりつゝ月新

風　冬

しまてこれをを雪けはれて
ちりまさりつゝ月新

新撰　新春

うらあるかのむとみゆるまて
ちりまさりつゝ月新

風　冬

みをつくしの下の色をうつ
ちりまさりつゝ月新

四大臣
入道三宮親王
家歌合
宝治院贈
左大臣
式部卿親王
藤原為世
藤原経通
源宣長卿
藤原為忠
藤原隆親
藤原為世
式部卿親王
藤原為世
藤原為忠
藤原隆親
藤原為世
藤原為世
藤原為世

新後撰 冬
新後撰 冬
凡 冬
新後撰 雜下
凡 雜上
新拾遺 恋二
新後撰 恋又
新後撰 恋又
新千 春
新後撰 秋上
新拾遺 秋中
新千 恋二

雪の中に梅の花を折りて侍りける
藤原為家朝臣
花とのみ見えぬ雪の夕暮れは
春の日の暮れぬるかとぞ思ふ
雅成親王
白妙の雪の下枝に
春の日の暮れぬるかとぞ思ふ
前大僧正慈円
雪ぞ降る
春の日の暮れぬるかとぞ思ふ
常盤井入道太政大臣
雪の中に梅の花を
春の日の暮れぬるかとぞ思ふ
後嵯峨院御製
雪の中に梅の花を
春の日の暮れぬるかとぞ思ふ
藤原為氏
雪の中に梅の花を
春の日の暮れぬるかとぞ思ふ
藤原為家

凡 秋下
彰捨 京四
彰千 京四
彰千 京二
彰捨 京文
彰捨 衰
凡 京文
彰後 新中
凡 京二
新千 新上
凡 冬
彰千 新上

住吉の神の四方のてゐきよ
ちかとをのしをしをれやは
あのまれぬ四のをとうらみを
ちをきあの松をてをかをうち
仏たをうしをうひをあをきは
かををと神の海よををうをく
をあのをうをひををれをあをて
をうの仏を君しををすいかををしを
をををせをを仏ををあををやをハ
をををしをのををををうををせみ
をををををりやををとをを仏ハ
をををををををををををををを

彰捨 新去
彰後 新下
彰捨 新去
彰千 衰
彰千 衰
凡 新下
彰千 新上
彰捨 新上
彰後 新中
凡 新上
彰千 新上

をを仏ををををあををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
ををををををををを

新拾冬　凡天

新拾後新去

新千京二

新千京三

新千京三

新千京三

新千京四

新後京三

新千京三

新拾京三

新拾京三

花園院御製

慶政上人

花園院御製

平宣時朝臣

為道朝臣

友家秀任

為右朝臣

進士門親世

藤原基夏朝臣

前右兵衛督宗尹

頃阿法師

俊成卿

新千秋下

刊後古

新上

新後古京三

新拾秋下

新後古新下

凡新下

新後古天

新拾京二

新拾新秋

凡京二

凡去下

凡京二

凡夜

花園院御製

慶政上人

花園院御製

平宣時朝臣

為道朝臣

友家秀任

為右朝臣

進士門親世

藤原基夏朝臣

前右兵衛督宗尹

頃阿法師

俊成卿

永福門院

風 忘三
新後拾 秋下
新千 雜下
新後拾 秋上
新拾遺 雜上
新拾遺 雜
新後拾 秋上
新拾遺 雜秋
新後拾 秋上
新千 忘三
風 忘二

三月ありとりかやくてゆん　俊成卿
こゝひいりはてゝけるまて　後鳥羽院御歌
あすたゝぬかりとの春のあ　後鳥羽院御歌
こゝひいりとあるとあるん　後鳥羽院御歌
まてゝ月秋のよるれの春よ　後京極摂政
こゝひいりの雲やたくらん　後京極摂政
春のゆくへはいかにとも　前大納言為家
こゝひいりやはるのくれん　前大納言為家
こゝひいりてゝ秋のみそらに　法印定為
こゝひいりやもゝ秋のいつらん　法印定為
こゝひいりの神のまつ山　俊成卿
こゝひいりの雲はるかなる　皇太后宮大夫俊成
こゝひいりの雲はるかなる　皇太后宮大夫俊成
こゝひいりの雲はるかなる　皇太后宮大夫俊成

彰拾別　凡賀　彰十祝　彰十賀　彰十冬　凡祝上　彰十夏　彰撰京三　彰撰藤　彰十京五　彰十京六　凡京三

いとせの秋萩のさかりにあひて
行末をかねのみなりよりまして
一夜かたぶきの未望はたをまて
まとをき君をみるをたのして
久しの宮をつかへつるかな
宮をこそまつの月かけをこそ
空つやとやとへかりてをこそ
あつまの月をまてをあとたのも
しるかやいつをつのをこそ
今は世をあとをきくはあひ
しるかをそあひしかのあつをこそ
あとれをつ〜つのはをとをれ

凡京一　彰撰春下　彰撰祝上　彰十夏　凡祝　彰十冬　彰十天　彰撰藤　彰十冬　彰十京三　彰十夏　彰撰祝秋

我はあひのををてををの
花の文はしをよををををは
のををへをはをのををめをを
空人を我をつけををををを
有漏をを色ををの人ををの乃をは
言のををよををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
ををををを

新千載中　新拾遺三　新後拾遺　新千載上　新拾遺　新拾遺上　新千載　新拾遺上　新拾遺上　新後拾遺又　新後拾遺　新後拾遺

うすくまあつひろまのをのをねの
をはつをまこもをあやはんん
むしまれのしをあをはを
をまをををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを

拾遺抄　拾遺風体　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄

新後拾遺　新拾遺上　新後拾遺　新拾遺　新拾遺　新拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺

君をいのをふれはをををを
紅の葉をてををりむををを
やををを月のをををををを
むをををあををををををを
をををまをををををををを
山風のをををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを

拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄

新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺

をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを

拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄　拾遺抄

彰捨 新秋
彰千 冬
彰後 五五
彰捨 冬
彰捨 冬
凡 冬
彰千 冬
彰捨 冬
凡 春上
彰千 冬
彰千 春
彰千 新上

寄ぬ野ぬ野ぬ野ぬ時ぬ
春ぬ秋ぬ
今ぬ
時ぬて
材ぬ
外ぬ
ぬ
山ぬ
ぬ
ぬ

彩子 郭上
凡 夏
彩子 夜
彩子 夜
彩捻 秋下
彩後 郭上
凡 秋中
彩子 郭下
凡 郭中
彩子 吉上
彩捻 夜
彩子 哀

たちそふ源の高て三位紀友山れ　　藤原定家卿
山水の岩の高き東ヶ岳　　藤原定家卿
たちそふあらしの音さそひける　　藤原俊成卿
夏の月の光のまくにあられて　　藤原公経
吹ちふ光のまくにあられて　　藤原為家卿
冬ふけぬこのいくのけるして　　藤原俊成卿
吹ちふ光のまくにあられて　　藤原為家卿
言ひつる宮の松原なのくと　　藤原公経
秋中
凡　　藤原定家卿
なりもすく松りしたかよりり　　藤原家隆卿
世をもうしとおもふ山ぶを　　藤原家隆卿
世の中いむ山ぶをあんとそ　　後人
秋下
彩子 郭下
凡 郭中
彩子 吉上
彩捻 夜
彩子 哀
秋下
彩後 郭上
彩捻 秋上
彩後 郭上
彩捻 夜
彩子 哀

秋の月の光のまくにあられて　　藤原定家卿
秋の月の光のまくにあられて　　藤原為家卿
秋の月の光のまくにあられて　　藤原俊成卿
秋の月の光のまくにあられて　　藤原為家卿
秋の月の光のまくにあられて　　藤原公経
秋の月の光のまくにあられて　　藤原定家卿
秋の月の光のまくにあられて　　藤原家隆卿
秋の月の光のまくにあられて　　後人
秋の月の光のまくにあられて　　中務卿宮
秋の月の光のまくにあられて　　藤原宣子
秋の月の光のまくにあられて　　太宰帥
秋の月の光のまくにあられて　　為経

彩捻 夜
凡 旅
彩捻 秋上
彩後 郭上
彩後 秋上
彩捻 郭上
凡 恋
凡 吉下
彩子 林

月の夜の時雨をしけと小山田の　　壬生忠見
うつるとも時雨のまくとたのむ人の　　藤原為家卿
萩の花ありてとゆむ宮城野や　　藤原定家卿
わかるるとこの宮城野の宮城野　　藤原為家卿
あにとれハ神さびわふ女郎花　　藤原為家卿
たとつてん彩の花ゆく月の　　柳原人丸
露ふたみてといひ人ぬさて　　藤原定家卿
久方の天のかはらの萩ハ　　中務卿宮
むく面のはて夕日のけをして　　藤原俊成卿
今ま正秋のこのふきあ金水　　藤原定家卿
ちるとてもいそ橋の　　東福門院
あふひのさけと秋て高て夏　　院御方
この一ものたの北源氏　　後鳥羽院

彰按 郭去
彰按 去下
彰按 去下
彰按 郭中
彰子 秋
凡 郭中
彰按 文
彰子 梅下
彰依古 秋上
凡 文
彰子 旅
彰按 郭中

ちりぬるの名残と思ひよそへて
ぞ見ゆる花の雪の朝ぼらけ
雪月のよそにさそはれあるかの
ぬく花のすがたに秋の風
かりそめの身とはいへども
年ふるまゝ木の本すゐて秋
あの葉よりこれてもあはれ
なるかの人ぞ思ひよこしもなりけり
うるはしく心ばせ秋也
あの葉よりこれてもあはれ
月をとゝめぬのうきものゝ
ちりぬるの花のあるを

原義利
園基長
為定卿
俊宣
後人
英雄
妙底
昭慶門院 一條
原雅光
書紀
牧牛物語
為朝女
藤原師氏

凡 秋下
凡 旅
凡 賀
彰子 雜
彰依古 賀
凡 郭下
彰按 郭上
彰按 郭上
彰按 秋上
彰按 郭上
彰子 郭上
彰子 郭上
彰按 郭中

ちりぬるの名残を思ひよそへて
ぞ見ゆる花の雪の朝ぼらけ
雪月のよそにさそはれあるかの
ぬく花のすがたに秋の風
かりそめの身とはいへども
年ふるまゝ木の本すゐて秋
あの葉よりこれてもあはれ
なるかの人ぞ思ひよこしもなりけり
うるはしく心ばせ秋也
あの葉よりこれてもあはれ
月をとゝめぬのうきものゝ
ちりぬるの花のあるを

藤原為家
藤原為氏
皇太后宮大夫俊成
静仁法親王
三條左衛門督
牧四國の人
常陸介
東北院
安法師
藤原氏

彰後拾哀
凡 郭下
彰抜 京
凡 春下
凡 郭下
彰千 京二
彰抜 別
彰抜 京四
彰後拾 京一
彰後拾 郭中
彰抜 別
彰後拾 天

うきてさの月にわすれぬ海士を
ありしはの月をもわすれぬ人を
はるばるとみやこをわかれたる
みるそこのうはつの雪もわすれず
いかにせんはてをあはれとおもひつる
しるべきはなきうれしき海のうの
たちはなれとゆく人をたに
つゆ草のうつろひやすきこの
ちぎりをかへすたのもしの
はるかにかすみたる春の
なかめやすらんとおもふ
月はなれとありしの夜の
月とてもありしの夜の月と

黄金伝雅有
坂三位為継
兵右元良親王
太上天皇
高階宗経
侯人公知
原孝康
信性法入乃家 関白左大臣
英納言為家
信実院関白 前左大臣
衣笠前右大臣
寂信師

彰千 京又
彰抜 郭秋
彰千 天
凡 夏
彰後拾 春下
彰千 郭下
凡 旅
彰抜 京四
彰後拾 旅
凡 京四
凡 春中
彰千 天

河舟のゆくへたにもしらぬよの
うきをかなしまてまたといはぬ
あはれとはいかにそこをたに
はるかなる舟はてをたに
むすもとありしいろりもひさ
かゆゆしきはかりなる
ひとりうつれはかけをも
もるてはかりなる
山のもにてうくひすをこそ
なれはまなれはゆくすゑをふ
たちはなれてはあとをとはて
ありしゆくすゑをもしらぬ

在業平朝臣
後人納言 寛仁納言母
二条院讃岐 光助
近衛院宮内卿
西三位実隆
平宣時朝臣
参議定忠
永福門院 門侍
平宗宣朝臣
伏見院 新宰相
浄妙寺関白 前右大臣
入道二条親王 性助

彰千 天
風 天
彰千 京三
彰千 京
彰千 別
彰千 京三
彰拾 京二
彰千 京二
彰徳 京二
彰千 京二
彰千 非中
彰拾 京三
彰拾 京三

風 非中
彰拾 非上
彰徳 京一
風 京一
彰徳 京二
風 非中
彰拾 非下
風 非中
彰拾 秋上
彰千 京又
風 非上
彰千 非下

彰撥 新下
彰撥 新上
彰撥 忘三
凡 忘一
彰千 忘一
凡 新上
彰撥 新下
彰千 秋上
凡 忘二
彰撥 忘四
凡 新上
凡 新下

年をへぬと二たびまで枝ひろ
ごりて
年の後の春まちかねて
さくらもちぬいろりまさりと
ひいそんとのもとにたちのくれて
ちるまでみるやはるこの月まで
なりすぎてのちもなほ
あてとひてのくさむらを
いかやせんみけしてをのさの
ますらをぬけ
うしとみし一重の美代名ぶり
みるまに彰の山をすぎゆく
行末をあのむとへやりつん

ちろよりたちるをみるも雑
ひまもなくあめとそらの
ひまもあめ
ひいそんとのもとにたちのくれて
ふよさしろまるありひとの
ふよあまるまるの美代
ふよあまるしてかろを
ふよあまるの秋のみてを
ふよあまるの月さかりの
ふよあめ物とそたとへ
ふよあめまやきめん
ふよあてをの紅をとも

仮名序
春宮権大夫
藤原公任
西園寺前
内大臣女
藤原有忠
藤原公任
東大納言
実方
藤原公任
東大納言
実方
藤原公任
東大納言
実方

新後拾遺
天
新拾遺
雨中
風
雨下
新後拾遺
雨上
新後拾遺
秋上
新千
雨中
新続後拾遺
雨中
新千
冬
風
雨下
新千
雨上
新千
恋三
新千
雨下

むらさきのそのむらさきと松の色は
雨をあはせてみるまつさきあめすれば雲のたえまにみるやとも
とのはるかぜのたえまにみるやとも
ちりすてし別々袖のなみのあと
秋さめを萩のしたつゆの色に
数のあるなれたにてうつ
第二のしらたまをまるめて
和歌浦の夕波のうつろひ
ものたにあはれをそひ風
ゆふ雲の影の梅ふく春風
うき人をはらいそあの別路よ
せき入るひのくまの嘉川

さらとあくるつゆ雨
さらとこしかれたるの
さらとそ一むをありつる
さらとうあ文こころもの
さらとそ雨のようの
さらとけ和歌浦波
さらとうつ人そすくるこ
さらとせ一こふ風也
さらとそ袖やうる
さらとそしら雪とおもし
さらとしら浪の色の
さらとそ人のたもと

慶安五年
源義郡
中院前任
英俊正
関俊
源貞世
惟宗光吉
郡下
土御門雅
大臣
英俊関俊
院御所
伏見院御所
藤原氏総
桂中納言
通俊

新後拾
天
新後拾
春
新拾
秋下
風
雨上
新拾
恋一
新千
恋下
新後拾
秋下
新後拾
秋上
新千
恋三
新後拾
恋下
新千
恋二
風
恋二

雨のよはのあけぬ西たのむの
第一のけのこまにすむ月を
みるまにありのとそ月影や
岩戸にふる雪の夢をさ雨
ありとそ波のしたかくれ
風のけしむさくたくあり
夕雨のこの雨のたちた
ちりそめ紅葉のくれ
紅葉のの雨のうつ
ちるもの雨ぬれたのまし
さらとそ世のうつ人の
さらとそ雨のよいけの命かな
さらとそ松のあと今はとて

さらとあくるつゆ雨
さらとこしかれたるの
さらとそ一むをありつる
さらとうあ文こころもの
さらとそ雨のようの
さらとけ和歌浦波
さらとうつ人そすくるこ
さらとせ一こふ風也
さらとそ袖やうる
さらとそしら雪とおもし
さらとしら浪の色の
さらとそ人のたもと

前中納言
大僧正義俊
源教康
貞空上人
京都御所
平貞文
刑部卿
怪二伝教
基名
基名
源俊
源季房
賀茂重保

風 忘中
新拾 忘二
新続古 文
風 忘一
新拾遺 忘二
新千 雜下
新続古 雜上
新続古 忘二
新千 忘一
新拾 袋
風 雜下
新拾 雜中

恨そんとかやてなりぬ
あまをはかりにぬくまれ
ゐりの浦のさはのしを
ほしろやとたゝりはをは
あさたのすがとやそんん
はひさをうゝ世ゐりをゐ世
われとゐひとゐ源ひわゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐのもの
ゐゐゐゐ菊生のゐゐ林題
袋林をはるゐゐとゐひゐゐ
ゐゐのゐ氏ゐゐ中ゐ海ゐの
茂海のみちゐゐしゐ茂ゐ

ゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐ

彰千 秋下
目 忘一
彰千 乗下
彰拾 忘四
彰後古 忘二
彰後古 忘二
彰拾 旋頭
彰後古 乗中
彰千 秋
彰後古 忘一
彰拾 文
彰千 天

そなたの時分にはわるくてそむくと
ぞんじてをるとそなたをあはれと
ぞんじてやらうぞ
ちよそのあるみちをめてゆくとなく
とのたれかるまあてうきくれて
月日のうつりかはりをまつ
とのとをたやすたのまむあるこの
三宝の神のかはりまをそなた
海のうるあはかりあるあをを
くて世にそしらひあるはは
うしのようにそれをつむそて
わる神よ神のゆるさあるつひまを
ゆるしてたれ神をへてきて

さてもたれふるさみたれ 拾遺院御製
さてもたれをやうれん 慶雲集 義
さてもの名れあるこ世中 菊原宗秀
さてもの名をたれ 菊原宗秀
さてもの名をたれ 菊原宗秀
さてもの名をたれ 三宝元秀
さてもの名をたれ 宗吳門院
さてもの名をたれ 信実朝臣
さてもの名をたれ 素性法師
さてもの名をたれ 源氏物語
さてもの名をたれ 中務宮
さてもの名をたれ 拾遺院
さてもの名をたれ 恵法上人

彰後古 忘三
彰拾 忘三
彰千 乗下
風 秋
風 忘二
彰千 忘一
彰千 文
彰拾 忘一
風 乗下
彰拾 天
彰千 天
彰千 天

あるこうしてあるとそなたの神に一つとして
わるくたにあまあとそれとそなた
まのことをあるこうそなたの神を
代をへてあるこはしたれ神をに
あるこうちあるこうをあるまを
宮中にはをとるこあるこなたを
忘れをとるこあるこなたを
忘れをとるこあるこなたを
忘れ

彩子雅下 經可遂歌
風 三下
彩抜抜 忘一
彩後抜 忘四
風 忘一
風 忘一
彩抜抜 尺
風 忘六
風 雅上
風 雅上
彩抜抜 雅上
彩子 忘一

あれたる人をたづねあへぬ
雅よりうたをこのきけとみる人の
みちばくの神のまうしはしあ
ヒハ命ゝ彩神のうつ書を
人をなぐさめとおもひ
よそをしていもの戸をとみるう
めをたいて入月をめりてハ
うら人をわとあるあ商のれを
きをあをまりまもりはをうまへ
むをのをけいのをたりして
ゆりのを月ゝ雅やまひ人の
とりや神ゆをつむありのをく

きりのうちハ神のまたく
きりのうちは三面の嶽ゝり
きりのうちはうちのうをて
きりのうちはうちの比
きりのうちはうちをを
きりのうちはうちをを
きりのうちはうちをを

月にとをくみやまかすみかくれ　　彰千　雅中
　　彰源古　衣
　　凡　雅上
　　彰接　雅下
　　彰接　忘二
　　彰接　秋下
　　彰接　忘又
　　凡　秋下
　　彰み　秋上
　　彰接　雅秋
　　彰源古　天
　　彰千　雅下

　　夏後鄭建
　　風雅集頼
　　大宰大弐重家
　　清浦御下
　　善源法師
　　拾遺雲雄
　　入唐僧一品
　　親王西園
　　後龍飛院
　　御歌
　　後伏見院
　　御歌
　　東洞之親安
　　四三位基経
　　秋成親王

うきなかに今はとみれはかすみ立
むらひあるはてもやうきのの
みひとりよはけりてあはれ
月をとはれ
かすみうきをこひしたいとをを
をてもやりてのの秋をく
海苔原をこめ海の藻のうた
和哥の浦ようひりとも演ふる
うきなかはの水をそうれ
美代世をとりそにかてあをとと

ちのやまにをこをふてん
ちのやまのたをてまをそ
ちのやをのををををあ
ちのまたにをひつるを
ちのまたにまをちる
ちのまたに月をとれ
ちのまたにはをそ
ちのまたにありてかさん
ちのまたにやを月を
ちのあをを河をを
ちのあををををを
ちのをしをあををを

彰源古　天
彰千　雅中
彰千　天
彰千　天
彰接　忘二
彰接　忘又
凡　雅中
凡　雅上
彰接　忘又
彰接　忘又
彰接　賀
彰接　又
凡　忘二

ちのををををををを
ちのをををををを
ちのをををををを
ちのをををををを
ちのをををををを
ちのをををををを
ちのをををををを
ちのをををををを
ちのをををををを
ちのをををををを
ちのをををををを
ちのをををををを

賀茂孝保
東後宮院
桂宮親王
東後宮良定
源朝之御
東後宮乃宮
貸院歌
後海河院
御歌曲伯
東後宮乃
桂大納言
義俊
斎宮御
雅成親王

風秋中
彰千 志三
彰千 志一
彰拾 志三
彰後七 天
彰千 非下
彰拾 夏
彰後七 志上
彰後七 神
彰千 裏
彰拾 志三

雲晴て山あはすこそりみなこの
つくさんてうきこそ人のまとまぬ
行ゆくとありひをとすわくこて
ひとをくこそあるこのかく衣
こめるく月ふ雲れうこ雲に
ふてこをあるの山ちよ入よこれ
をこそこ雲れこみと弱ち
山人の瓜本よせるいとなし
雲ちくひこたわこるみにはめを
神をみよこそし川ゆく水雲
ひこそ沈つこれ思ひ移ま
瓜のこうこ弱こあこれこ

ちこや月のちこの尼　英綱右良
ちこやまのむこひこ尼　建智門院 生不知也
ちこや立れけるみこん　英綱関孝
ちこまとひよいこちん　夢之良 親之
ちこまちすあり時の月　法之住右理
ちこくはこ世のしと　業雲法師
ちこりけこを掛こ松　後西園寺 前内大臣女
ちこありてやこれこ　英俊 宗長
ちこあてこやいこなつも尼　二条法親王 守覚
ちこちくこ後といの尼　業雲法師有
ちこゆこを掛これこ　性中納言 為兼
ちこちくこ雲みこりこ　花山院前太

新拾 非下誹
新後古 旅
彰千 志一
彰後古 旅
彰拾 志三
彰千 志三
風 夏上
彰拾 雅上
彰後七 秋下
彰拾 志三
彰後七 志三
彰後七 旅

わくこりとれここを文氏の
涼ちくこれけりこ殺こまこ
ちくこしいこの胸のこ雲こり
ここをありひこりこしまこ
山こ雲こ雲にこここここ
伊勢の海はこのくこ我ふ
雲ここ雲をこけあここ
ちくこ雲よけをこけこ
あここれけみこのけ雲こよ
ちくまここ雲こ常のこくこ
あここくこ雲こ雲こ
月よここみここれここ

ちこちこのこ雲れ　後人之忘
ちこちここけ人生の怪也　大雲之有家
ちこひこちこ雲こを　為道卿下
ちこひこちこ月新　登蓮法師
ちこここの雲まこ風　性仲卿宮内
ちこひこちこ雲こ　乃家法師
ちこ雲こ雲をこ雲れ　俊成卿
ちこちこ雲こ月をみこ雲　民部卿為明
ちこ雲こ雲の秋の雲の　宮内長綱
ちこ雲こけ雲ここ俊尼　為業法師 卿下
ちこ雲こけ雲下ひこれ雲　尼公 公右
ちこ雲とこの雲雲こ雲　性中納言 非縁

風雑
風
文
新後拾
秋上
新後拾
秋下
風
雑下
風
冬
新後拾
雑中
新後拾
文
新後拾
恋二
新千
雑中
新千
天
新後拾
神祇

なくなる君とてつてはりしかの
世のあるかぎりとおもふらん
風ふく峯のうき雲とぶさてはて
限のさらひのこゑ八入のかすみ
ゆくさはなるこゑのまとまして
いつ年ゆくはるしりしかの
ちとの原漕とゐれぬる水鳥の
くまあはいつ秋ちかきあや
あるむのをつまてをとこ秋
あるまりのまとゆりる山水
ふかるる雨をやとりる白
吹ふる夜のまつの節の高

藤原俊成
藤原俊成
後鳥羽院御製
藤原信実朝臣
中務卿宮
宮内卿
光明峰寺入道
藤原良経
皇太后宮
大夫俊成
一条住家
寛元
藤原家隆
僧正宗縁
宋
藤原定家朝臣
藤原信実
小弁

新後拾
恋三
新後拾
天
新千
冬
新後拾
賀
新後拾
天
新後拾
恋三
新後拾
文
風
秋中
新後拾
旅
風
旅
新千
賀
新後拾
雑上

君ませはそにてふ藤のかの
あり山とかはるをを契きて
そしらるる井の月もけてへく
君を松ふりもみるふる
らわの人をとけともとあ
恋ふるまてふりはひよ
夏草はおけるあはる山
秋風ようとをかけて山のを秋
もてこもてとひけるの山
恋ふるふのみちあれを
もとせのちくつえの松
うりけるみさのまとゆ

三条右大臣
僧正宗縁
妙花山院
門大臣
建礼門院
右京大夫
慈空上人
前関白近衛
藤原忠定
大江宗秀
藤原雅世
藤原定家
妙華院
前参議教有

彩接 旅
彩千 忘四
彩千 忘三
風 雅下
彩接 旅
彩接 雅秋
彩接 秋上
風 雅上
彩千 雅下
彩千 忘二
彩接 冬二

多ふてそはりたにあめをうつく
立ちりつてきくてあまりまるる
ゆるさはをるくをのあふ波
和ゆる浦みたのはるかの浦風をハ
ちとりなくありしりをりを茶
あの屋をしあまりあるを川彩
みぢにあのしうれをけまハ
きれなる猫をもしる海のをるふ
おそををををの光はをを
をあくはあ接ハ光ゆ牙み
美緑おらうくりれ雲やあるを
作又あの山猫をあとあん

清原出頭
精高聖
照覚法師
為隆信卿
俊人宗
清四賀
隆寺四位
英俊為意
家隆卿
英俊為朝
徳法三位為子
保有卿

風 旅
彩接 雅秋
彩接 雅上
彩千 雅上
彩千 雅下
彩千 雅上
彩千 雅下
彩千 雅上
彩千 雅上
彩千 雅上

新拾遺
新千
文
新千
雜中
新後拾
文
風
秋上
新拾遺
文
風
春上
新千
冬
新後拾
雜上
新後拾
春上
風
春上
新拾遺
文

友こそふしろの海の海士風み
いつる川をきわうれ月新春
今年をとんとあ春まち風の
はるこえぬるみさかりうりはる
秋萩よみてむかうく廉れ
面をてタけ山よるく せこれ
桜てハまてよみちてうこひの
ものとのうこみてうる海みを
和うれ浦のれよこせあ風の塩
あるく寄をみうこ音れ戸み
れ身の梅ゝまるく学るこ
海ゝはいまてこ雨れ松風れ

ゝをはまあけていつる夏人
ゝをはけてるく秋こ
ゝをきくふもめて独ゝる
ゝをこの山の春の下露
ゝはりはるこ春ゝ
ゝはりはるこ春ゝ
ゝはりはるこ春ゝ
ゝはりはるこ春ゝ
ゝはりはるこ春ゝ
ゝはりはるこ春ゝ
ゝはりはるこ春ゝ
ゝはりはるこ春ゝ
ゝはりはるこ春ゝ

右衛重
勝多院殿
後鳥羽院
後鳥羽院関白左大臣
前大納言
俊光女
藤原定家
藤原為家
藤原為家
藤原為家
藤原為家
藤原為家
藤原為家
藤原為家
藤原為家
藤原為家

風
春上
新拾遺
文
新後拾
遺
新拾遺
春上
風
春上
新後拾
遺
新拾遺
春上
風
秋下
新千
秋下
風
雜中
新後拾
遺
新拾遺
秋下
風
秋中
風
文

たかたかそこ月こそ山のかこ
やう風みけ春の夏のかこ
かこたこ春の月の春すむ
れ外のれこかこ夕こせう
わこ春の月新ここ外新
ものこ春の下露ものこ廉の
とりやはこ春ものこ
あ春や院のここ
秋こりの八重たかこ山の
秋れはむこやはこ
ここ春こ春の月入こに
面ここ春こ春風ものこ

正三位知家
従二位行家
後鳥羽院
関白左大臣
後鳥羽院
関白左大臣
後鳥羽院
関白左大臣

彰捨 枯下 風 京四
彰千 京三
彰捨 京二
彰捨 京三
彰捨 京四
彰後 京三 風 京又
彰捨 別
彰後 京一
彰捨 京一

高砂の尾上に月はかたぶくとも
いかでかはこゑをたえぬ
ものとかは
ふみちらすかりのとまりを
うき世とはなにをさすらふ
ちりそくやのこゑをたえ
人は世につまをもつむは
たれからもとをたにすが
かくしてわれをたのむ命は
いとしかを我のみとうれしさを
わかれは世にあるゆゑは
あくまで我身をたのめ
我代りをあはれ

彰千 京四
彰捨 京二
彰後 別
彰千 京又 風
彰後 京又
彰後 京一
彰千 京三
彰捨 京三
彰後 京三

心のこゝろ井のそこをかへりみて
浮世のちぎりはとをあまに
うゐをそむのうらへうかは
あの世をうとくたまをあさよ
恨てをうれをかへせ来ても
中くよあひあんとをりをそ
やりくよさてたるまのそれを
別のをとうあをもてまする
仏のうををうゝみゆふれの
はをさとを世をむひをうをて
をををををををををををを
七月のをの月はをくふをり

ひとをわれかをこの
ひをあををりあをを
ゝをををををををを
ひをををををををを
ひをををををををを
ひをををををををを
ひをををををををを
ひをををををををを
ひをををををををを
ひをををををををを
ひをををををををを
ひをををををををを
ひをををををををを
ひをををををををを
ひをををををををを
ひをををををををを
ひをををををををを
ひをををををををを
ひをををををををを

伊勢 橋逸村 東宮内親王 大納言経継 大納言資母 清補物下 参議為長 僧院元宣 左兵衛督 僧内親王 後徒為継 橘為仲朝臣

新千
恋一

新千
恋二

新後拾
恋文

新後拾
恋四

新後拾
恋上

新後拾
秋上

新拾
秋上

風
雜上

新拾
友

風
冬

風
秋下

新千
雜下

新拾
友

新拾遺
雜下

新千
神

風
秋上

風
秋中

新後拾
雜上

新拾
雜下

風
部中

新後拾
秋下

新千
冬

風
友

新後拾
賀

風冬
風秋下
彩千 春下
彩撰 春下
風夏
彩千 春上
彩撰 冬
彩撰 郭春
彩俊 秋下
風春中
彩撰 冬

花ちるまうすかすみ　匡房卿
晴ぬるかりもにしれぬ小雨の　華物法雅
春をせぬ峯の雪のきえかてに　花園院宮
いさりすてしをしるまひのそて　藤基俊
夕立はそこの雲のあしの風　宣光門院
あさみどりはるかすかすみ　彩藤卿
はるの雲はるかに雲の　俊人忠
遠かたのつりしの雲れ　邦有親王
ちるまてに遠方はるかすり　道夫法師
かりにはるかけてかすみ　藤俊卿
枝をおくさきのはるの雲　俊成卿
いさくらの咲かの風のはるの月　桂大納言房経

六百廿二首

元

代々をへてかすかの心はるの　康寺回道
をちこちの春のかすみ　紀参法師
いはのとはるにしるしのやま　大原法門
あさかすみ春のかすみ　右大臣
はるの雲のかすみ　藤俊卿
春の雲のかすみ　藤俊卿
ちるはなの春の雲　後久我
はるのかすみ　左大臣

五首

風 忘三
彩子 忘一
彩後 誹
彩後 秋上
彩後 物名
彩拾 忘四
彩拾 忘二
彩子 雜下

八首

[illegible]　花山院 前内大臣
[illegible]　権中納言 公雄
[illegible]　紀貫之
[illegible]　参議雅経
[illegible]　藤原好忠
[illegible]　藤原仲実
[illegible]　藤原為家
[illegible]　左京大夫 藤原定家

彩子 哀
彩拾 離
彩拾 雜
彩後 古 忘四
彩雜 古 忘五
風 雜下
彩拾 神
彩拾 哀
風 哀下
彩子 雜上

[illegible]　惟宗広言
[illegible]　源頼朝
[illegible]　普賢菩薩 内大臣
[illegible]　前中納言 為秀
[illegible]　藤原実宣 前右大臣
[illegible]　藤原義信 前
[illegible]　三条入道 前内大臣
[illegible]　大江広房
[illegible]　前大納言 公任
[illegible]　藤原為人 前宰相中将

新拾 雅秋
新拾 雅春
新拾 冬
新千 冬
新千 雅上
新拾 冬
新拾 冬
新千 雅上
風 雅三
新拾 春上
新續古 夏
風 雅中

をちかたの
ふるさとの
ゆくすえも
なほ
ちとせ
ちとせ
ちとせ
ちとせ
ちとせ
ちとせ
ちとせ
ちとせ
ちとせ
ちとせ
ちとせ
ちとせ

昭祐法師
素性法師
中務卿宮
宗尊親王
修大納言
公雅
源宗于朝臣
有家朝臣
前大僧正
公朝
後人不知
前大僧正
道昭
修大納言
実兼
大納言藤原
進士門部王
兼春 白
前内大臣

風 雅上
新拾 冬
風 冬
新千 冬
新千 冬
新拾 冬
新拾 雅上
新拾 冬
新拾 雅秋
風 冬
新千 雅上
新続古 夏

をぐらの
をぐらの
をぐらの
をぐらの
をぐらの
をぐらの
をぐらの
をぐらの
をぐらの
をぐらの
をぐらの
をぐらの

前大納言
良経
源三位頼政
前内大臣
昭慶門院
一条
三条入道
前太政大臣
従二位宣子
修理亮則祐
常盤井入道
前太政大臣
前内大臣
従一条入道
前関白太政大臣
従光明峯寺
前摂政太政大臣
平氏敷

新撰古歌　すゑ山むまやたちひよ実ちてそこをみりぬ　ふるせ　祖月法師

新拾歌　秋風ふくふもとの実ちてすゑ山　ふるせ山　仁九条前内大臣

風雅上　あまにかりあてかきしの蓋のの高ひろ　ふるせ秋　前大僧正慈勝

風雅上　すこしひくくもりとれ八月ひとし月ふ　ふるせ秋　左京大夫為家

新撰古　小あ〻いあ人〻ひろ色葛の紅葉ふ風ようもの　ふるせ秋　仁和寺後宮

秋下　ちろ〻ら夜ちふ八いり〻花こ水ちろ〻ひ〻に　ふるせ　前大納言為定

新千　立ひ色り花そのこ白人沈色ひし　ふるせ　入道二条関白

新拾　立ひ色り花そのこ白人沈色ひし　ふるせ　入道二条関白

冬　みち沈川さ〻沈ぬれ〻ふ〻ひ〻ち　ふるせ　伊勢大神宮

新千　たちちたちたちうみにかりん方おぬ　ふるせ　前中納言為相

夏　たちちたちたちうみにかりん方おぬ　ふるせ　前中納言為定

風　ふ〻ひ〻ちの花ふ〻ひ〻ち　ふるせ　前内大臣

雅六　ふ〻ひ〻ちの花ふ〻ひ〻ち　ふるせ　前内大臣

新拾　ふ〻ひ〻ちの花ふ〻ひ〻ち　ふるせ　前内大臣

夏　ふ〻ひ〻ちの花ふ〻ひ〻ち　ふるせ　前内大臣

新千　ふ〻ひ〻ちの花ふ〻ひ〻ち　ふるせ　前内大臣

冬　ふ〻ひ〻ちの花ふ〻ひ〻ち　ふるせ　前内大臣

新千　山めく新あ〻ふの高ひ花ふ〻ひ〻ち　ふるせ　前内大臣

冬　山めく新あ〻ふの高ひ花ふ〻ひ〻ち　ふるせ　前内大臣

新拾　いく〻ふくしたれ〻ふ〻ふの日ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　ふるせ　赤染衛門

冬　ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　ふるせ　赤染衛門

新拾　ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　ふるせ　和泉式部

冬　ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　ふるせ　和泉式部

新拾　ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　ふるせ　一条院内大臣

冬　ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　ふるせ　藤原実方朝臣

新拾　ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　ふるせ　前大納言為世

冬　ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　ふるせ　前大納言為世

新拾　ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　ふるせ　道法法師

雜秋　ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　ふるせ　道法法師

新撰古　ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　ふるせ　光俊朝臣

冬　ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　ふるせ　二条院讃岐

新撰古　ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　ふるせ　聖尊

歌　ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　ふるせ　惟宗法師

新拾　ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　ふるせ　源時清

雜秋　ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ　ふるせ　湯浅宗重

少将

新拾遺
春上
新後拾
恋上
新拾遺
冬
新千
春
新千
秋上
新拾
秋上
新千
秋下
新千
恋四
新後拾
雜上
新拾遺
秋下
新後拾
雜中

ふくとすん　皇后宮大夫俊成
ふくすみ　家長卿
ふくみなれ　皇后宮大夫俊成
ふくもるめ　光俊卿
ふくさえ山　俊成卿
ふくさえ雲　式部卿宮
ふくさえ雲　前中納言定家
ふくこ松原　藤原人
ふくきみは　法皇宮家
ふくき笹　後三條
ふき祓　雅宗
ふくさ寺　式部卿宮
　　四條
　　前大僧正
　　義運

ふくきくは　前大僧正
　　道玄
ふくきくを　源宮内大臣
ふくきくを　前大僧正
　　道玄
ふくきくを　藤原師
ふくきくは　[illegible]
ふくき笹　[illegible]
ふくき笹　[illegible]
ふくきの枝　[illegible]
ふくきの枝　[illegible]
ふれなん　[illegible]
ふれる白雪　右近大將
　　道綱
ふれる白雪　前大納言
　　俊宣

新後
恋一
新拾
夏
新後
恋四
新拾
秋下
風
春下
新拾
恋四
新後
恋四
風
秋下
風
冬
新後
冬

まつ人とたのしきかりの川をとしつる
　　[illegible]
　　[illegible]
　　[illegible]

新千冬　あらし山あきの山もみぢはすさのをの
新拾春上　はるの山のひかりのそこにあらはれて
新拾冬　こがらしすぎぬ冬のあけぼの
新拾冬　いのくとあけぬ山のあなたの
新拾冬　分入ぬ人事もなしうぬ山の
新拾秋　木ぬれ吹ぬ秋の夕ぐれ
新拾　流れてはこのしたしたの
新拾　もてうらまれぬ
新拾秋　七夕ぬ
新後古夏　月毎に
新千恋二　ひさしぬ
新拾　就中山ぬ

ふれる白雪　ふれる白雪　ふれる白雪　ふれる白雪　ふれる白雪　ふれる白雪　ふれる白雪　ふれる白雪　ふれる白雪　ふれる白雪　ふれる白雪

小野流嵯峨大臣
壬生忠岑
前大納言為忠
亀山院御製
従三位教成
紀貫之朝臣
俊子内親王
人麿
律師聖全
右近中将宣旨
後人
従二位家隆

新後古　新上　風　春下　新千　離　新拾　秋下　新千　冬　新拾　旅　新拾　羇　新拾　冬　新拾　冬　新後古　恋三　風　冬　風　雜中

紀の海や沖つ白波たつたの山
春ぬる日なもうつりぬ久方の
長津宮に花ちるとき
ちりかすみをいそ山の
いかの山をこえて大井川
うぬの花のみよしの
足ぬ
冬きて
山ぬ
冬ぬ
山ぬ
冬ぬ
山ぬ
冬ぬ

風冬　新拾秋下　新後撰新上　新冬　風友　新後撰冬　新後撰新中　風秋上　新拾秋上　新拾恋四　新千新中　風秋下

わすれぬるかたうらすさまのあきをとはなく
てのゝ原ふりはてぬ月はこそ秋の秋しなく
元ちゝのこゝ月と哉とにおきわたるやそ千世を
秋風もむこそたちは新やちゝの海のゝ波なる
なゝとせ月のゆくへしらしなとてやこのあしの
花ゆのそゝ世ハ新とおもひしたや遠山のうへ
みるゆひはもれ淚とそくるぶむ一ゝ人の
われ首いなる舟人の袖ふるかゝ新秋を
浪ゝ秋ゆの袖ふれぬる海風し物とやし朝
波ゝ原ゆしてゝ秋のうゝふいろり
新ちゝ行のそゝ世ハ新ゆる秋ゆ
なゝあゝ秋の山を出ゝあゝ人ゝ月を

わくあらし　新中納言定家
ふけ果ゝ月　通盛　右大臣
ふけやゝ新　従三位経房　参議右大臣
ふけてゝ月　参議右大臣
ふけ秋風　前大納言　為通
あそのとさひ　承福門院
ふきはゝ人　摂政太政大臣
ふきうゝ月　為子
ふきうゝ人　拾遺　中務
ふきそゝ人　果寺
ふきやゝ人　二条院讃岐　尊風
　　太宰大弐　重家

新千秋上　新拾新上　新後撰冬　新千冬　新千冬　新千冬　新拾冬　新後撰冬　新拾冬　新後撰冬　新拾冬　風秋下

い新ゝ秋ゆ月ゝを月ゝゆ秋ゆ世ゆのゝ月ゝ月ゝ
ゝすゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
秋ゝゝゝ秋ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

新千
冬
秋をへて
なほ
ひろにみく
ちりけり
あれ
ぬ
新千
冬
秋のあらし
ふく
新千
神
秋
ぬ
ぬ
新拾
冬
晴
くも
ま
ま
ま

新千
雅上
新後拾
長上
新後拾
秋下
新拾
立五
新千
雅上

ふるさとにみてたちのぼるたかうたかく
長うすんぜにをふりて受つるれば雲ぬ
ふれば雪
わりなしいかりくすり霧のよりはうとれば
ふれば雪
ちぐさの竹の緑みふるすれば下ようしの
ふれば雪
ちぐさ雲れ知りわるすもいのすみ
ふれば雪

第四句
有本
従三位
雅家
法下
雪蓮

百又十九首

新千
友
新後拾
霧
風
雅下
新拾
友
新拾
霧
新今
立一
新後拾
長上
風
雅上
新後拾
秋上
新千
秋下
新拾
秋上

こ

かきくもりあめのふるさとのつれづれとたのみ
ふるあめ
あまとぶひとの枕もしるきこの葉しわき
ふるあめ
花ぐもなれば長くてうくやすらはれ力はおうき
ふるあめ
ちぐさ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ

読人
知らず

恵慶
法師

伏見流
西三条

大江頼重

今出川流
近衛

法下宣力

仮名流
実日本大臣

院内裏

宝亀石文
大文仮名

藤原雅頼

宝亀流
大大臣

新後拾 秋下
秋きりたちこめてこゑにへられてきなくなりはしたちあの
風さむしさをのかさめにきこえれくれはとかさかり
新後拾 秋下
長六文殊すしこしみうへのうりあやはわるこの
新後拾 長上
きのふたてをれわをさにみしのいとまにもひ
羅
新後拾 雅中
秋はさしかりとすりこれはえあをとをとりの
新後拾 雅中
あれはそりあはれ音のふるみとりあをあをを
新後拾 長上
さらはのをすりはれ袖はあはやきのあをりをとり
風 秋下
ちのりひきやえなはあはあ月のうやこを
風 秋下
ふはさしをかさをそきをはをを月のををはよ
新千 秋下
をしをあ春はをきれてなを月の月の春をあ
新後拾 秋下
かりへのをこをあ秋さしあ春をひて本情のをを
新後拾 秋下
あれは秋をはをしかをれををはのをの春後はのをや

武和歌 為明
仮題会流 白大政大臣
仮題会流 河製
仮題撰歌 前大政大臣
仮題撰歌 頭昭
仮題撰歌 河製
従中納言 公雄
従二位 承澄
新撰和歌 資平
前大納言 為家
宝治流 信尺大臣

新千 秋下
秋はあをれはをををををををををををををををををををを
新千 秋下
海浪はをれてをををををををををををををををををををを
新千 秋下
をををををををををををををををををををををををををを
新拾 雅上
秋はあををををををををををををををををををををををを
新拾 秋下
七月の月ををををををををををををををををををををを
新拾 羅
ををををををををををををををををををををををををを
新拾 秋下
ををををををををををををををををををををををををを
新拾 秋下
ををををををををををををををををををををををををを
新拾 秋下
ををををををををををををををををををををををををを
新後拾 秋下
ををををををををををををををををををををををををを
新後拾 秋下
ををををををををををををををををををををををををを

頼朝 江帥
平河内
藤宗泰
法眼仲顕
中国分寺 大政大臣
源頼貞
猪名 右大臣
前大僧正 光源
前中納言 定宗
為冬卿 右
源持元
前中納言 定宗

新後拾 秋下
ちとせみるせうつのさにわかれるまに　従二位家隆
新後拾 秋下
こぬよひとなれしをもてやうれうこの　権中納言方宣
新後拾 雅上
萩うもうつろふ海やかすみをもれるの　紀伊豊朝臣
新拾 秋下
はのあれはふくしもやはらぬをしひ　芳海和尚
新拾 秋下
ぬるはつ月つき月もあきの月のきよ　藤原為氏朝臣
新拾 秋下
ぬるわひぬとも月つ月もあきの月のきよ　藤原為氏朝臣
新拾 雅秋
あきとなれとなれはあはれ　一条院讃岐
新後拾 秋下
海をしあれはあはれ　藤原為家朝臣
風 雅中
家にいまはひとりはとはれぬ　藤原為氏朝臣
新拾 雅秋
おもふ人の涙よりはふかくそかしれ　藤原為家朝臣
新後拾 夏
ほとゝきすはつこのみてはつこのみてはつこのみて

新続古今 冬
新後古今 冬
新拾遺 冬
風 新後下
風 恋五
新千 恋一
風 天数
風 雲上
新拾 雅下均
新千 恋一
新千 雅中
新千 雅上

池の水にはかなき氷のいとなかれ新しき人みくにはいてしたるまゝはこゝろ石のくゝるまゝ
清水の底にはかなきはてはよりはかなきはてはよりはかなきはてはより

新拾 恋二 新拾 神 新続古 恋四 新千 春 新千 雅中 風 恋四 新千 恋一 新千 恋五 新拾 恋五 風 恋三 新続古 雅中 新拾 秋下

勢とはとくまたいかなりけれとみたのむへき
神しなほなりとはさきたのとをわれもうへき
わしみはいかしうくをかうりたてしハ夏ちし
恋の道はけかしてらみはは秋をくへよ
とりくきたはのさたしふしはしせみのこ夜
いまはなりと思ことしいをこへ向こつるはく
恋ちはなをみいさこあまいひ出ん濡すてを
わをれはをふなる秋のうれはりはとあの
いとこをに秋のをこうかりそれをこ玉
ふれやさんわをちはをは恋をこ海をうの
山里はなりの赤ををしくるをたくやら赤の
をもとをみこまをの秋とこうるれむ公は

前信心 栄海
中務宮 宗親王
源光栄 前左大臣
清原宣方
有家信実
永福門院
仁中院 前内大臣
心円法師
信二条 前太政大臣
三条院 義氏
九近
前大僧正 義運
こうすも法
こうすも法

新千 雅中 新続古 離 新続古 恋二 風 雅上 新拾 冬 新拾 冬 新続古 恋一 新拾 恋三 新拾 羇 新続古 秋上 新千 恋三 新拾 秋上

月はてしらくさえ入ぬまりなれすくしの公のやみま
あふ事はおもしにまふふ小船ひ海の秋人
かうつき侍りはあまのやをたをあはの
なら柴にて秋のをこうとをめしやをちはや
こすをあいをしかてなみちを柴ををを送の
ひをしるかあれをなら柴をををををををく
是月の山下をれををいをををはいて
波のをかをしく独の新秋をををををく
みをををとをしをくやををををををををを
秋八秋の月をいををををををををををを
よををををををををををををををををを
天河をを者ををを逢ひををの七夕をををと

前大納言 経継
九条 右大臣
津守国基
二条 教定
芳流
昭慶門院 一条
前参議 政清
仁和寺法 内御製
後京極 摂政
花園法 内御製
源公忠 朝臣
中務宮 公家母
赤人

新続古 亥一
新千 友
新続古 秋下
新拾 雑上
新続古 冬
新拾 冬
新拾 雑秋
新拾 雑上
新千 亥四
風 雑下
風 雑下
新千 雑下

すゑのあさにはあらぬさかしらに神のまもりを
なほたのみつるあはれとやいはん
わすれつる我のみかはの人の身にあはれうつるはつ
波のうへこそはなけれ山ちかきわしにちるはの
いはねうちうちとうち秋の名おろし見ぬ雪のむ
ちそなるあらしにたちそはれてはたちにたる
見かはるれてせにつりをそ峯ちかつ
海辺の冬しみそめ初いとてうめ年ぶ
むこりのうちのまつましみみられなそ
ぬるうかまちなる方ちもうれ夕べ幾
いうかをんうむうかはてそ四てにとてをうそ
山川の岩さにはしたはくかのやとくなる

こゝ人尽也 源満祐 信多神流 守製
こそはなる春 九河門 新垣
こゝ人なる船 貴之
これとやあん 菊原之俊 朝臣
これとちうち
これ春なり 菊原泰宗
これ春なれ 摂政太政 大臣
これとうん 入道二条関白 光誉
これ川の世ま 読人不知
八世とやみる 前大僧正 慈鎮
これ世春なち 前大僧正 道元
これ世うなり 中院右大臣

風 雑下
新拾 雑上
風 雑下
風 亥五
新続古 春下
新拾 夏
風 秋下
新拾 春上
新続古 賀
新続古 哀
新続古 哀
新千 哀

うきなゝあるにまうす我方こそかくてしもとつ
うに事ふ嘆し公のさまゝゆ月をうめ如
ムゝそ五月をそをりとうりにそれやとくあさ
ちるをやとなりふゝそをるをきれゝのつゝさん
あさにちる梅を風やをりにくゆさそうゝこそ
五月雨にをうゝ水代見ゝをなる舟をにつく
雑波ゝ蓮実のふりそまゝにやをそうすむ
ほの四てからをくうちなゝ為ゝまわゝれゆめ
八月ゝのをりをひ宮八ゝ毎をて余をの八
波ゝ八神をゝ嘆きそををゝちゝ秋のをゝて
ちゝわさ法力ををゝ見ゝ思ふ嘆ゝ
をりひをき波ゝふ春のゝをひをりゝ秋ふ

こそ世数なれ 菊原為明 朝臣
こそ世春をは 小侍従
こそ世うれをし 春家流 四条
こそ世のこゝハ 殿富流 大納言
こそをそをき
こゝ世泥秀 源泥流 参議 門伝
こゝ世松ゝ 等拓流 傍右大臣
こゝ世松ゝ 澤山手邦省 教主
こそをりゝ 源頂
こゝ川過流 前大納言 公泰
こゝ世ゝ人ハ 中原師尚 朝臣
こゝ世ゝ 法皇 門製

風雅上　新後拾遺　新千秋下　風雅中　新後拾遺　風五　新拾遺　尺　風二　風二　新十一　風雅下　風雅下

袖ぬれて　ことのはも　従二位為氏　為兼入道前内大臣
ふるとしれくひとりやなほ　ことのはもみ　新後拾遺
月新の秋いまはしみなりぬ　ことのはこそ　蓮生法師
行かつ新のあひまにひさて　ことのはの　二条法教王　兼定　前大僧正道昭
春ふかき山のこのもとのうす雪　ことのはの　人麿
きえ残る人の花せ人へとゝへやう　ことはもひ　入谷二条殿　尊道
ひつ行あ人のこせ　ことはとと　後人の知
なほ雪にきのふ人ゝ　ふるあれ　後人の知
命をたに志ゆ　ふるしの　後人の知
いとてあ思ひやるあて志せ　ふる公　後深法師　前大納言　注頭
いまもて行へてもう白川のみこ　ふるあ　
わう世ゆ新てちめてをみこと　ふるく　前大僧正

新千　風雅中　風冬　新後拾遺　衰　風旅　新後拾遺　雅上　新後拾遺　雅中　新後拾遺　三　新千　秋上　新拾遺　二　新拾遺　一　新拾遺　四　新拾遺　三

ゆ新きりに野ゆ　ことあれて　ふ　河内製
高千中みゆふ　ことあるて　基俊
ゆうへのくゆ　ことあるさ　俊成卿女　宗盛流　河内製
野ひやま新ゆ　ことあるさ　後京極
いはいを野ひから　ことあるさ　後京極氏
ゆはいを野ひから　ことあるさ　後京極氏
ゆうのりの旅ゆ　ことあるさ　四条法師
川のをれわうき　ことあへ　前参議　雅有
ゆりうきなゆ　ことあり　伏見院　河内製
白ゆ月のゆ　ことあ　大宰大弐　高定
人めをつまゆ　ことあ　参議教定
月夜にもゆ　ことあ　昭光法師
ものうへ人ゆ　ことあ　花園流　河内製

風 哀四
新千 哀六
新拾 哀一
新続古 哀四
風 哀三
風 春上
新拾 雜下
新拾 哀四
新拾 哀一
新続古 哀一
新千 哀四
新千 哀三

ちとせはかはらぬ
あひみてはなをさそふ
かくやくらんなりにしを
みさこかはのあはれとぬとあ
思ふこころをくらしあ
ふるれはの紅の
山ふかき月ふるとりうれそめて
いはもとあふ事かたきなれて
もり見川いのとこそ
ふるはをうつ袖の
夜ふかの
これのてあはうはよ

こころをつくす
こころをしる
こころをしる
こころをしる
こころをしる
こころをしる
こころをしる
こころをしる
こころをしる
こころをしる
こころをしる

権大納言公宗
権大納言実氏
聖徳太子
敦忠
待賢門院
堀川
永福門院
赤染衛門
中関白道隆
大政大臣
源仲教
坂上明兼
下野
法皇定房
花園太政大臣
宗小大進
法眼澄基

風 哀四
新千 哀六
新拾 哀二
新拾 哀五
新続古 哀五
新千 哀六
新拾 哀三
新拾 哀四
新拾 雜中
新拾 哀四
新続古 哀六
風 哀四
新続古 哀二

おもひもやうにかはりなしこの方に高くしこりぬ
今もうにかをそ契の志てよりうあひき初て
おもうにかはしもすれんこいりにはるとらめぬ
うはてしてはてしてふるれはふまはら
恨てしかをそをちよりあしきこの
山おとをたのめてしかはをそうくきうれ義の
ちうくしはるやとあのむかはれなり
ふまはてはうにかしてうにかしあきふ
ちすはあはなにはあはこうはこえ
はかふ女人とすれひめの高きはの
たらとしおはをつかのうはいはくにのろ
白浪のなかをは契とすはつはをはなり

新拾 哀二
新拾 哀五
新続古 哀五
新千 哀六
新拾 哀三
新拾 哀四
新拾 雜中
新拾 哀四
新続古 哀六
風 哀四
新続古 哀二

こころをはさ
こころをはさ
こころをはさ
こころをはさ
こころをはさ
こころをはさ
こころをはさ
こころをはさ
こころをはさ
こころをはさ
こころをはさ

第六納言為忠
内製
大江成重
第中納言定宗
大納言顕実母
長昭法師
源高秀
平政村朝臣
仮二条流
内製
大蔵卿澄博
権大納言公宗母
従三位為子

新拾 亥三
新千 亥三
新続古 亥又
新続古 亥三
新千 亥一
新拾 亥下
新拾 友
新拾 別
新続古 秋上
風 亥下
風 秋上
風 雅上

さそはれつゝうゑし春の花はつのれしほうとなりぬ
みのをはくゝ又ゝをうけいはをうのあの世しをてぬ
をゝしてわやうゝ乃ゝわつさゝ我ホハひゝうぬ
春おくゝとかゝれてそれをゝれあゝ後よゝ方を
いゝホ女人をれゝゝりの寄りせめホこゝ名世の
木蔭ゝゝゝ新としいてゝよゝゝの月をむしゝ
をゝ珍ゝやゝゝ変のほゝくゝ今行よゝさゝ
をゝひえゝ名おりゝくゝ珍ゝふかゝてん行の
いゝホ芸ゝ本れゝゝふゝホしまゝ月をゝ尾上ホの
金曜ホかゝてゝゝ名ゝ春をゝとゝ新よゝめゝ
まゝくゝし突ゝゝてゝゝ新落風ゝまゝくゝふ
をれゝゝゝわゝゝ春めゝ方ゝゝ行をれゝまゝ名

こゝゝホ医 大中臣 行房朝臣
こゝゝ侍ゝホ 為方朝臣
こゝゝ法ゝさ 前大納言 実房
こゝゝ侍ゝゝ 権中納言 雅世
こゝゝ侍ゝゝ 源心 中務卿親王
こゝゝ侍ゝゝ 伏見院 御製
こゝゝ侍ゝゝ 野宮大臣 前内大臣
こゝゝ侍ゝゝ 読人不知
こゝゝ侍ゝゝ 律師円尼
こゝゝ侍ゝゝ 崇徳院 御製
こゝゝ侍ゝゝ 源重之女
こゝゝ侍ゝゝ 従三位 氏房

風 雅下
新千 亥三
新千 亥三
新千 亥又
新千 羇
新千 尺
新千 尺
新拾 冬
新拾 雅中
新拾 尺
新拾 亥一
新拾 亥二

山ゝく方をかくゝてし世中をうまゝてぬ
うゝしれぬ我ゝゝひゝちれ実ゝうゝ花人の
ゝまれゝとゝふゝそゝて亥ゝゝきゝをゝまゝ
とのゝゝ世ゝゝゝとゝう乃ゝゝ秋方代のむ
旅ゝゝしけゝくゝまゝてしゝゝてゝ郭みかゝふ
みゝくゝゝみゝゝゝ人ゝ中ゝくゝよゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ人みゝゝとゝはゝゝけゝ法のゝひゝゝゝ拾
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

為家宗朝
前大納言 良経
為家 藤原朝臣
後大僧都 頼深
為後 清原
如寛 上人
仁和寺 法親王
前大納言 公蔭
新撰 伏見
公敏
前僧正 慶運
前大納言 為定
為家 藤原朝臣

新拾遺 歌三
新拾遺 哀四
新拾遺 歌上
新拾遺 歌下
新拾遺 尺
新続古今 哀又
新続古今 尺
風 哀三
新千 歌上
新千 歌中
新千 歌下
新拾遺 哀二

ぬるうちまでうれしかりけるこれのみあふまてとおもふ命とはりしかはあふまてとおもふ命とはりしかはこれはなをうとくなりにしかはこれはなをうとくなりにしかはとのつくるに世をすくはんもまたあるへきことにはあらしとこそはりしかはこれはなをうとくなりにしかはうれしかりしかはこれはなをうとくなりにしかはあしかりしかはこれはなをうとくなりにしかはあしかりしかはこれはなをうとくなりにしかはあ

風秋中

雲てしてすめハしちこきりみ〻人の名を月きえ

風 京三

ふきりゆくゝにあしたれなるこゝろ方の

風 京四

なゝ世ゆゝくしこれとなりてゝなにかゝる

新拾 京三

ちゝやゝちゝ夜とれ侍よいはまてこりあ

新拾 京三

またゝとふ拾ゝゆゝ表のてゝゝやうにの

新拾 京一

京ゝゝん命ゝくゝふしたりまあなたゝあゝてゝむ

新拾 京三

ゝゝハ方にゝしあゝたしゝゝてゝゝゝのしやまゝ

新拾 京又

方ゝゝゝけてゝゝゝゝやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

新拾 歌下

いゝゝれてゝゝあゝまゝの主ゝゝゝゝ思ゝゝゝゝゝゝゝ

新拾 歌下

思ゝゝゝゝ世のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

新後古 京又

方ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

新後古 京又

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

前大納言 太良

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

伏見流 新宰相 氏ノ一 為定

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

源孝朝 船慶ノ流 一条

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

推宗光右 朝臣

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

従二位 業子

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

賀茂三宗流 入名前内大 法眼雲義

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

宗芝法師

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

大内入名 前内大臣

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

中納言 為俊

新後古 京又

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

新後古 歌中

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

新後古 哀

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

新拾 京三

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

前千 京一

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

前千 京一

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

前千 京又

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

新拾 大

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

新拾 歌長

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

前千 京三

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

新拾 京二

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

新拾 京四

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

前参議 教長

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

従三位 仮長

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

式部ノ卿 邦省親王

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

内大臣

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

為乃朝臣

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

式部ノ卿 恒明親王

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

仮三条 前内大臣

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

高階宗成 朝臣

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

津守棟国

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

熊宣朝臣

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

祖月法師

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

前実右大 大臣 近衛

新拾遺二　新千尺　風二　新後拾遺六　新千二　新拾遺　新拾遺三　新拾遺一　新後拾遺一　新後拾遺中　新拾遺上　新後拾遺上

ちりひろはんやきさうしはなすてふうゑみたりへき　こゝろあてはん　道勝法師
むさうの花のうへにすれなとなかすとよりはく　こゝろあてほ　法華禅師
なふとなくもひりてそまさうれはなのかくやこはつにうゑみんうとしひはたふ　こゝろあてひな　永福門院
きのふしをけしそのいろをん我方ひとつの　こゝろあてへ　伏見院
初芋ふうのいみちのよしはなとたろ　こゝろあてよな　入道二品親王為尹
くてまれはなきかとしたのまれを四しのの　こゝろあてひな　光明峯寺
きをれはかはとうたく為島のうこゝをそこ　こゝろあては　後嵯峨院
きてはかはきの浦りもくみれのの水かふ　こゝろあてとし　今上御製
新かれはりしれすそそ炎落のみちに　こゝろあてとし　後福門院
花の夏とそそに見もそそ高しをそつく　こゝろあてし　亀山院
年とにはつなしにセタのこゝとひとに　こゝろあてし　中納言保光

風一　新千春下　風春中　風雜中　新拾遺上　新千尺　新後拾遺一　新拾遺三　新拾遺一　新拾遺雜上　風雜中　風夏

よはまてい花のたちとみなゝかれうちみ　こゝろあては　契之
拾むまきこゝはとりに今はの春光に　こゝろあては　為家義孝
初めて見つふしあて拾花はりてかきん　こゝろあてま　源道海
山ちの松のうこひはあはくにあてこゝ　こゝろあては　第六別宮為氏
裏てそ拾のまるれちとりふ拾はふきは　こゝろあてれて　白兵衛尉直義
いうれて流の内みれつて縄きつまわきり　こゝろあてし　権大僧都長玲
人きまの方なれ松木のはまれかつれるれ水　こゝろあて酒　今上御製
菊アルく入流の舟つて縄きこゝやまうみ　こゝろあてくら　大宮院長御
いるれて我方のこふそくわそれと酒よのこ　こゝろあてん　第六別宮経親
あまに四ひとりて山里のけひのあ　こゝろあてあ　安東右馬頭
ようれ四ようしは四るやおくあのとの拾きめ　こゝろあてし　伏見院
石て新就法河流ちの四り山ふくきす　こゝろあてん　第六別宮資季

三笠山とりあつめられしも哀なり　　こゝに住む　春日大明神御詠
花さきもとをのとりこゑ　　こゝろふせ　同鶏流御製
いふしの山に寿よもぎ若葉　　こゝろはせする　第六僧正遍照
あひ見ていとやこゝろせ　　こゝろやせ　大江匡衡朝臣
ちやうなる月を淡よくりはむ　　こゝろやもが　上東門院女房
こゝろとは若水をとりあひ　　こゝろやこする　山口重如
秋みて若草よみ捨る蔦　　こゝろとせれ　冷泉流御製
なけきつむ力車はまえ見ぬ　　こゝろとせれ　後拾遺朝臣
さしの世のむつひとさけと方　　こゝろとせれ　東院法師
人をみるもふれしもそれ我のこゝ　　こゝろとせれ　従三位敦政
あるもー世ふりぬ方をこそ思ふ　　こゝろとせれ　大僧正行尊
きしのわつ泥のみきふ折ふてこゝやものか　　こゝろとせれ　第中納言定家

新千葉　新拾春上　新拾冬　新拾雑中　新拾尺　新拾雑中　新拾尺　新拾雑中　新拾春上　新千葉

新拾冬　あてれすの松むらにいとうつくしの
新続古冬　かつけるゆくうつみそあてれ方にいとをしう
新拾羇　ちくいてもあやいとうて雲もなれむくしを
新拾雅上　うくさまつつみちるき花の坂をとをとをとを
風秋中　こゑ初つ初風さむし初りもくこをこれて
新続古尺　かひすれ人をわくきあ法の水うに世のをを
新続古離　我独よりゆ流をうめをれて水八れ水をうり
新続古羇　こく水やをちうをを雲をうをうをみをいう色の松を
新拾雅秋　ゆをををみ水ゆを成ゆをひやを新をうをの
新続古雅下　ゆ法に六十九春を色ふをうこををうくひを
新続古秋上　雲れうのなをを月ふひを色をやを流ををを
新続古恋三　あをふをを遠をを行あををくをふ春の春をれて

入唐二品親王遍助
中国入唐僧大師大臣
頼人不知
昌義法師
菊大僧正
道元
明観法師
成尋法師母
二京法親王
定基
国清円僧
菅原為忠
朝臣
義仁法
親王
菅中納言
為相

新千
雪　のこ人ふるよりの代のををこをの人をの人をの山の
新拾
賀　冬人ふれ花の冬松を吹風を義代よをふ
新拾
雅中　ゆをりをりををををををを昔をを
新千
祥　神をれを我をををけ仏法の松をふをけを
新拾
雅表　春春をを坊月ををれを雪ふ雪を
新続古
雅表　いふむをを山のををををををををを
新千
友　九々をを雪をれ行者く風ををををを
風
冬　けををを奥をひををを春ををを
風
春下　春月月をを春をを月をれを
新千
春上　をれ行のをを行をををにをを
新拾
秋上　霧ふれをを初あけの春をれ春月をの
新拾
秋下　秋ふれあををを春の春をを春をの

頼人不知
菊園流
作製
平重盛
津守国冬
選子内
親王
清原定運
従二位
行房
平宗盛卿
朝臣
前大僧正
慈源
仮照入宋流
実百度入宋
俊乗房流
作製
仏光禅照流
実百度入宋

新続古今　冬　風雅　歌上　新拾遺　秋上　新千載　恋四　風雅　歌中　新続古今　冬　風雅　春中　風雅　歌中　風雅　旅　新拾遺　冬　新千載　秋下　新千載　雪

わすれぬるのちはいかにくるる日にかふかき
てのを山ひとつ月はかすめてこそ
書こしの時とはたてすまれ月ふのをく
はるくと思ひつくしひ花のかすみ
山ぢけや行のあるさに人目もりて林のちりぬ
雪ふれはとうれ松ふるのもれて恨ては
かすみこそ花のとあれ春雨ふる
つまくとなるあくて今ぬるのあひのう秋の
我のこ水ふくこゆる人山路ふるひとの
わく方や浪たく海ちとなりてなく
高き花ふ春のうへ人ふるはてはもれ
り未をゆうをきくる松のうせつ春ふ

大僧正道覚　前大納言尊氏　従二位業子　読人不知　伏見院御歌　左京雅永朝臣　左京教兼朝臣　後宇田教主　左京朝定　正二位隆教　永福門院　左京雅

風雅　歌中　春中　風雅　歌下　風雅　新拾遺　歌表　風雅　恋一　新続古今　冬　風雅　新千載　新続古今　歌上　新千載　秋下　新続古今

寺ぬるに移ふあれ山おのこもせてわ了来は遠の
山ふ秋ふ了すハ三て移うし秋見乃ふ
今にはりむうまかりはりすふ秋見はよを
まうれつくうにはれなう熟公文月ふりは
待人のなりるひとし郭公をはう文月
かりうへ人ふまきちと水はとうきかひるうへき
こうりは弱うりわうすと川も本はのうお
ふりうへくしもにうくうすきうく強き
みとをふと我きくるよはりの鳴もるのう
明りの業野深は秋乃みるえるうち立白鷺の
秋ふくう来やうむしとうりくもなりうちき
月といはたといつくうくうくうきはるけ

伏見院御歌　従二位家隆　永福門院内侍　前中納言定家　左京基名　藤原大納言道綱母　従二位家隆　前大納言為尹　良経　前大納言為氏　進士前親王　今上御製

風友　まきのはに染すてゝ　藤大納言
風乱　れなるゝ藤の行のむすめ　藤原為家朝臣
風雅中　なかるゝ紅のこゝろ　藤原為家
風雅中　ちぢになれ　永福門院
風雅中　花のうへ　伏見院
風雅中　久しうも柳の糸の秋　藤大納言為世
風秋中　雲をつゝむ　進門院
風雅中　村雨ぬきちらす　源仲郷
新拾友　ちりそいはらはらとちりぬ　宗村宿禰
新拾恋二　蓮をそうゑる　藤原為氏
新千恋二　なつかしひとをもひそむるや　等持院贈左大臣
新千恋一　一枝ゝ　前内大臣
新千恋四　中くゝ　藤原為氏

新拾恋四　なかひいつるそのふいまとしてとひてうん　藤原為家朝臣
新千恋一　ちにそなれうう　三条入道左大臣
新拾恋一　かりふくゝ　藤原為氏
新拾恋二　ひとのあるひ　鴨祐友
新続古恋一　ふるさとのうせ　従二位為氏
新千恋一　月の　人丸
新千恋二　あふ事とはたのこゝろの　船恒
新千恋二　ふりぬと　二条法皇
新拾恋二　藤のうち　光助
新拾恋一　あふ　読人不知
新拾恋四　ちきこゝろ　桜町大臣

新続古歌 八橋とゆくへとにごりひとつとてにそもれる
新千 哀二 きてしより油のこあるを嘉納川はたをあふをあてし
新千 哀又 うかりをうきは中川をのこをあふをあてし
新拾 秋上 秋とてかてるあるをよるく庶幾をやは
新千 哀五 逢るをきゝの年をれわれはうへ
新続古 哀二 住よりは松ゝのしかひをはよりはをはけき
新千 哀一 音にのこわやるくゝをきてをめてうしはをこ
新続古 哀二 山あれてゝの境けをしにまを見ねゝ人ゝ
新千 哀四 花をかりをとをををを思ふすをつき
新拾 哀一 おつてををたををれをををををのをを
風 哀二 をををををををををををををををををををを
新続古 哀四 をををををををををををををををををををを

嘉川流中文上総 悲わりをうと
頼人百知 哀わをうん
前大納言為 哀わをうん
頼人百知 悲ををうん
仮二条流 哀ををれ業
澄覚法親王 哀ををれ業
在原元方 哀ををををを
前参議雅有 哀をををを
赤人 悲ををををを
従二位家隆 悲ををををを
徽安門院 悲ををををを
前大納言雅言

新拾 哀一 いをををををををををををををををををををを
新千 哀三 いをををををををををををををををををををを
新拾 哀一 をををををををををををををををををををを
新千 哀一 をををををををををををををををををををを
新拾 哀四 をををををををををををををををををををを
新拾 哀二 をををををををををををををををををををを
新千 哀二 をををををををををををををををををををを
新続古 哀又 をををををををををををををををををををを
新千 哀二 をををををををををををををををををををを
新拾 哀二 をををををををををををををををををををを
新拾 哀一 をををををををををををををををををををを

文可流 悲をををををををををををををををををををを
行念流 哀をををををををををををををををををををを
太上天皇 哀をををををををををををををををををををを
源通親 悲をををををををををををををををををををを
兵部卿澄親 哀をををををををををををををををををををを
前大納言為 哀をををををををををををををををををををを
頼人百知 悲をををををををををををををををををををを
坂上帝女 悲をををををををををををををををををををを
源頼春 悲をををををををををををををををををををを
徽安門院一条 悲をををををををををををををををををををを
前大納言資季 哀をををををををををををををををををををを
九条殿資実 悲をををををををををををををををををををを

新千 恋二
報指 恋二
報指 雑中
新拾 恋五
風 恋四
風 恋五
新千 恋二
風 恋四
新拾 恋四
風 恋四
風 恋四
新千 恋一
新拾 雑春

みちくさなるふしのなかにもて
いとなかりけるとこのもとに
我やのくちもむすびくさ
草にてはみてしたわかれ
浪のしら岩はしたそなれ
むすびをかさしふりてとしよ
ほのうつもるかなしさ
ものとてしたはつまこ
四方の秋とたくしよ
いそとれくとしたわとれ
ひうめてなうくはやくしたち
山ちかにたしかしたしたれ

為道朝臣
信実朝臣
中納言
家持
中納言
家持
春後
頼人不知
頼人不知
頼人不知
貴之
二条院
内侍
従大納言
為世
為家為氏

新拾 別
風 旅
風 恋一
新千 春上
新千 恋三
新千 恋四
新千 雑下
新千 春
新拾 恋四
新拾 雑中
新拾 恋一
風 恋四

春の少くとをとこけて月はつかを
わすれなるわいしりあるとし
おいのとをとりくしたをとひまちりて
大うにありとしたれ秋ふるあ
いはたうのかとをいくしてきて
野にむしりかりて月はあ
秋のあいはたりはのりの世とて
ふかさうの月はつけていくうの
いとれくあちしとをれあるはの方
なにしうさはいくあるの世の
大井のとうあ秋のいうれいなる
つまくとをうめのをもとしてい

立ちかへき
立ちくん
立ちくん
立ちくん
立ちくん
立ちくん
立ちくん
立ちくん
立ちくん
立ちくん
立ちくん
立ちくん
立ちくん

世をそ
従大納言
為家
賀茂保憲
朝臣
山西法師
従二位家
九条
頼人不知
従大納言
為氏
西行法師
入道二品
親王法寺
頼人不知
従中納言
定頼

秋ちかくなりぬるをしるべとてくさのしたばのひとりまかれる
つきまちてとしのくれぬるをしるべとてくさのしたばのひとりまかれる
きてよりいまはつゆのしたばのひとりまかれる
月のかげにはなれしひとりやとりけんとしのくれぬるをしるべとてくさのしたばのひとりまかれる
きてよりいまはつゆのしたばのひとりまかれる
おもかげをみるにつけてやあはれのこりとあはれのこりとあはれのこりと

風雅 釋教
新千 哀三
新拾 哀八
風雅 秋中
風雅 哀一
新千 哀三
新拾 哀一
新後拾 冬
新千 哀
新後拾 哀八
新拾 哀三

え

清涼殿よりみちの国へまかりけるに
とりのこえはるかなるにかすみたる
人をとどめてしかの面影のたちかはる
いかにいてゝまつらんとよみけるに
秋をこそ
ひとりこしかとなれしかの
ゆかりなるをまつとしのうちに
かすみのうちよりはるのきたる
雪のきえぬとこそいふなれ
行末のもとにたちかへる
みせやとりふるさとの
はなしとてゝいとくらかりし

従二位為忠
源孝行
中納言為房
前参議教長
左兵衛督重義
権中納言定房
大納言忠尊道
花園院御製
従三位為信
権大納言朝臣

彰考雜　彰千友　風亥三　彰千袁　彰落名雅中　彰落名亥一

なつ人方式ゝ　えゝて　従三位汀紙
初音ゆ紙ゝて　ゝれて　郭久人ゝ　ゝれゝ　仮二条流汀製
うゝよう　ゝ　ゝれて　ゝて　ゝ　進士肖義生
かりゝ過ゝ　ゝ　ゝ　